

Ⅱ区1号井戸 (第162図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
1	肥前磁器	碗	11.0 5.3 4.1	見込み絶の目録割ぎ。外面寛持ち壁?と施文。	波佐見系
2	製作地不詳陶器	碗	(10.8) 6.5 4.3	体部は丸みを有し、口縁部下がくびり、口縁部は小さく外反する。高台は低く、丁寧に削り出す。高台内の削りは浅く、中央が僅かに突出する。外面に竹状の縦物を上給付けする。横物は幅約を葉、茎と葉を縁、葉の先端の一部を黄色で描く。文様の反動に赤で線を記す。内面から高台部に長石粉を施す。粉には三重貫入が入り、主貫入には墨を入れる。	関西系
3	瀬戸・美濃陶器	碗	9.9 5.6 4.1	内面から口縁部外面に粗い貫入の入る灰釉。高台内から体部外面に鉄釉。施地に曜変状四線。	瀬戸焼
4	瀬戸・美濃陶器	碗	— — 8.8	底部外面から体部上位回転削り。体部下位、施削りにより横線をつくる。群部から施削り地まで横線きを高らす。体部中位二ヶ所塗ませる。底部外面から体部内面中位まで顔色の鉄釉を施し、底部外面のみを拭う。	徳利
5	瀬戸・美濃陶器	片口鉢	12.1 6.5 5.3	貼り付け高台であらう。高台と高台部の形状と大きさは碗と同じである。口縁部外面に1条浅い凹線を高らす。内面から口縁部外面に灰釉を施す。貫入入る。見込み目録三ヶ所。片口一ヶ所に貼り付ける。	
6	製作地不詳陶器	灰漆とし	3.6 6.4 4.0	内面と腰部以下無釉。外面に淡黄色の化粧土を塗り、透明釉を施す。外面に菊を上給付けする。茎と葉を黄緑、花を葉がく青で描く。底部外面回転削り。	口縁端部のはばすべてが小さく欠ける。関西系。
7	石製品	石臼(下)	径39.0 高さ12.5	割れた状態で出土。よくみは浅い。	横粒輝石火山岩
8	鉄製品	刀子	17.9 2.3 0.5	両刃作り。基部やや曲がる。	

Ⅱ区3号土坑 (第162図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
9	石製品	磁石	(9.5) 2.7 2.4	1面使用、3面に製作痕残る。	磁沢石

Ⅱ区1号溝 (第162図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
10	在地系土器	皿	(9.9) 1.7 6.0	体部は広く拡がり、口縁部は丸味を持って立ち上がる。底部左回転軸切り無調整。	
11	肥前陶器	青緑釉皿	— (4.8)	見込み絶の目録割ぎ。内面から口縁部外面に青緑釉を施す。口縁部外面から高台外面に透明釉を施す。	内野山系
12	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	— (12.0)	底部右回転軸切り無調整。磨輪を施した後底部の軸を拭う。内面使用により磨滅。	
13	石製品	磁石	(8.8) 4.5 4.4	不定形、1面使用。断面台形。	磁沢石

Ⅱ区2号溝 (第162・163図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
14	肥前陶器	碗	(12.0) — —	外面東面山水文を描く。松や東屋を大きく描く。	陶胎染付
15	肥前磁器	蓋物	(7.8) 6.7 (5.3)	異型を呈し、高台径は大きい。外面に横線を染め付けする。口縁部上面から内面の軸を掻き取る。器壁薄。	
16	肥前磁器	瓶	— — 5.6	体部は丸く張る。体部外面に花卉文を描く。	
17	瀬戸・美濃陶器	煮組	— (7.0)	内面から口縁部外面に灰釉を施す。見込み目録一ヶ所残る。	
18	肥前陶器	鉢	— (10.0)	内面白土を刷毛塗りする。体部外面上位は白土で波状文を描き、下位から高台外面に鉄泥を塗る。内面無釉。	唐津系
19	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	— — —	底部右回転軸切り無調整。磨輪を施した後底部の軸を拭う。内面使用により磨滅。底部内面のすり目は同心円状。	
20	石製品	磁石	(3.4) 2.3 1.4	細く磨り減った端部片。	磁沢石

Ⅱ区3号溝 (第163図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
21	在地系土器	火鉢?	(23.0) — —	外面は回転削り後の、粗い書き。口縁部内側に傾斜する。酸化炭成地。	

Ⅱ区1号集石 (第163図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
22	肥前磁器	碗	(10.8) 4.6 4.2	見込み絶の目録割ぎ。外面寛持ち壁に磨削文を描く。	波佐見系
23	瀬戸・美濃陶器	蓋	(14.0) — —	口縁部にはほぼ直立する。外面浅い曜変状四線施る。内外面顔色の鉄釉を施す。口縁端上縁目録二ヶ所。	焼き歪みあり。
24	瀬戸・美濃陶器	水手付き瓶	— (8.2)	外面黄釉を施す。高台内から高台外面無釉。注ぎ口貼り付ける。	
25	製作地不詳陶器	蓋	4.6 2.0 3.3	天井部内面右回転軸切り無調整。天井部外面無釉を施す。	

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
26	肥前磁器	瓶	3.2 - -	肩部微く肩、肩部は細く伸び、口縁部は外反する。肩部外面に文字の染め付け。	
27	在地系土器	焙烙	(37.6) 5.7 (34.2)	外面肩部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には捺作り痕明瞭に残る。底部と口縁部に補修孔あり。底部内面、特に小型の青花文状と「大無上」と考えられる押印あり。焼し復焼。	体部外面のみ保存着。
28	在地系土器	不詳	(31.0+) (17.5)	外面肩部などと同じ型作り痕。現存部分で3面に体部を貼り付ける。平面形は長方形を呈すると考えられる。	
29	石製品	砥石	8.0 5.5 2.2	楕円形を呈し、使用面は平らに磨られている。	軽石
30	鉄製品	刀子	(8.5) 1.2 0.3	先端がやや反る。	
31	銅製品	蓋状製品	3.8 1.7 -	端部の留め具か。	

#### Ⅱ区2号集石 (第163図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
32	瀬戸・美濃陶器	瓶	(17.5) - -	底部回転糸切り使用線から体部下端回転痕削り。外面回転を施し、底部外面から体部下端の輪を試す。	徳利

#### Ⅱ区3号集石 (第163図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
33	瀬戸・美濃陶器	皿	(23.3) 6.0 (13.0)	高台内の一部を除き灰釉を施施。底部内面回転線に沿って銅線軸を織状に掛ける。底部内面回転線に段差を有し、体部は細く内湾する。口縁部は外側に開き、中央が凹線状に窪む。底部内面に目皿一ヶ所。	
34	丹波陶器	すり鉢		体部下位外面側の指押さ状圧痕あり。内面使用により摩滅。	
35	石製品	砥石	(9.3) 3.2 4.0	角柱状。1面使用、整状工具による製作痕。	ダイヤサイト

#### Ⅱ区4号集石 (第164図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
36	在地系土器	皿	(11.2) 2.8 (6.4)	底部外面左回転糸切り無調整。体部細く内湾し、口縁部外面は直立する。底部内面回転線強い回転痕でにより凹線状に窪む。	中世
37	肥前陶器	碗	(10.6) 6.8 4.6	外面に東洋山水文を掻く。	陶胎染付
38	肥前陶器	碗	- - 4.9	高台外面に2条、高台籠に1条縦線高る。	陶胎染付
39	石製品	砥石	(7.5) 2.6 3.1	2面使用、中央部厚く両端部薄くなる。	砥沢石
40	石製品	砥石	11.0 3.0 3.9	2面使用、中央部厚く両端部薄く磨り流り台形となる。	砥沢石
41	石製品	砥石	(8.4) 3.7 3.1	3面使用、中央部厚く両端は薄くなる。	砥沢石

#### Ⅱ区1号列石 (第164図)

番号	種 類	器種・器形	計 測 値	特 徴・そ の 他	備 考
42	石製品	砥石	(5.1) 3.0 1.7	両面使用、中央が細く両端部厚くなる。	砥沢石
43	鉄製品	環状製品	7.3 2.1 -	長円形の環状製品。	

#### Ⅱ区1号盛り土 (第164図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
44	瀬戸・美濃陶器	皿	(13.0) - -	内面の底部と体部境に小さい段差を作る。貫入の入り込めを施す。	磨滅并
45	瀬入系土器	皿	- - (4.0)	底部左回転糸切り無調整。底部内面回転線やや深い回転痕。体部は広く広がりが、胎土は緻密。	底部外面不明磨着。
46	瀬戸・美濃陶器	仏飯器	(7.1) - -	外面口縁部下まで回転痕削り。体部は丸味を持ち、口縁部は直立気味。内外面染付。	
47	志戸呂陶器	灯明受皿	9.2 2.2 4.7	底部外面から体部下半回転痕削り。内面から口縁部外面泥を施す。受け部にはアーチ状の流入口を一ヶ所設ける。	内外面の一部袖付着。
48	瀬入系土器	ミニチュア	2.7 2.8 1.9	家屋のミニチュア。暫は前後ではなく、対角線上での二分制のため。平面形は平行四辺形をなす。また、横も対角線方向を向いている。胎土は緻密で軽質に焼き上がる。	
49	石製品	軽石製品	6.8 4.1 1.0	小判形で表裏が磨り面。両縁部も磨って成形している。	二ヶ所軽石
50	鉄製品	包丁	(17.0) 5.2 0.3	先端部欠損、刃部は磨り減る。	

#### Ⅱ区1号盛り土 (第164図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
51	銅製品	取っ手	7.6 5.7 0.9	菱形で引き手部は楕円形。	

#### Ⅱ区1号土手 (第164図・165図)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴・そ の 他	備 考
52	瀬戸・美濃陶器	蓋	(13.9) 3.2 (7.7)	蓋の裏。底部右回転糸切り無調整。蓋つまみを貼り付ける。又井部外面に回転線を施す。	

番号	種類	器種・器形	計測値(口・高さ)	特徴・その他	備考
53	在地系?土器	皿	12.0 3.0 7.0	底部左回転糸切り無調整。器壁厚く、器高高い。器表一部割線する。胎の粗と器形・胎土が異なる。	口縁部漆多付着。口縁欠損部にも油行着。
54	瀬戸・美濃陶器	蓋	(11.7) 2.7 15.0	蓋の胎。底部右回転糸切り無調整。蓋なつみみを胎り付ける。全面に筋輪を化粧程度に掛ける。	
55	肥前磁器	碗	10.0 5.2 3.8	雪輪帯御文。高台内不明跡。	波佐見系
56	肥前磁器	碗	9.7 5.1 3.8	外面フコニヤ割による弁形内に側と側文を各三ヶ所に施文。高台内陶器化した「洗輪」字跡。	波佐見系
57	肥前陶器	碗	(10.4) 7.1 (5.2)	残存部が少なく東屋は見えないが、山水文を描く。口縁部は雲状の文様。	陶胎未付
58	肥前陶器	碗	(11.0) 7.4 (5.4)	外面に東屋山水文を描く。口縁部と高台輪に割線を巡らす。	陶胎未付
59	肥前陶器	碗	(9.4) - -	外面に東屋山水文を描く。口縁部と高台外面に割線を巡らす。	陶胎未付
60	瀬戸・美濃陶器	皿	12.9 2.7 6.7	高台は断面三角形。外面は口縁部付近まで回転糸切り。内面から口縁部まで灰輪を磨く。見込みには高台を直接重ねて焼成した痕跡が残る。	
61	瀬戸・美濃陶器	皿	(14.0) - -	口縁部は直線的に外傾する。器壁は厚い。胎土は黒灰色を呈する。残存部全面に灰輪を施す。	
62	瀬戸・美濃陶器	碗	(10.8) 6.7 5.0	内面から高台輪に胎輪を施した後、口縁部に灰輪を掛ける。	尾呂茶碗
63	瀬戸・美濃陶器	片口鉢	(16.4) 10.1 7.9	胎り付け高台。蓋部外面は回転糸切りにより滑らかな曲線を描く。口縁部外面から体部内面は割線を巡らす。口縁部は肥厚する。内面から口縁部外面に貫入の入る灰輪を施す。口縁部外面に割線胎を施す。見込み目数三ヶ所。	
64	瀬戸・美濃陶器	碗	(14.0) - -	大塚の碗。内面から高台胎に貫入の入る灰輪を施す。	
65	瀬戸・美濃陶器	瓶	- - (11.2)	寸割型の体部外面に胎輪を施す。底部外面に底部縁線の微細り部の胎は施す。内面は磨く胎輪状に胎が掛かる。	巻判
66	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	- - (12.0)	全面に胎輪を施すがムラがある。底部右回転糸切り無調整。	底部内面から体部下位使用により摩滅する。
67	在地系土器	地埴	(37.7) 5.3 (34.0)	耳は一ヶ所残る。外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には経作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	体部外面に煤付着。
68	在地系土器	地埴	(35.8) 5.5 (33.0)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には経作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	体部外面煤付着。
69	在地系土器	地埴	(40.3) 5.4 (34.6)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には経作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	体部外面の一部に煤付着。
70	在地系?土器	人形	よ(44.0)高8(41.1)	型作り無輪の土製品。大黒塚の背面下半で、袋と袋の表現が認められる。	
71	石製品	砥石	(4.1) 2.9 2.0	角柱状。1面使用。製作痕残る。	砥石石
72	石製品	砥石	(7.6) 3.7 3.2	断面方形。2面使用。	龍蛇碑石安山岩
73	石製品	砥石	(8.7) 4.2 2.5	2面使用。中央部厚く両端部薄くなる。	砥石石
74	石製品	石臼(上)	径(33.0)高8(11.5)	季分に割れている。	龍蛇碑石安山岩
75	鉄製品	鉢丁	(18.2) 5.6 0.2	刃の部分が曲線となる。	
76	銅銭				
77	銅銭				
78	銅銭				
79	銅銭				

#### Ⅱ区3号土手(第165・166回)

番号	種類	器種・器形	計測値(口・高さ)	特徴・その他	備考
80	肥前磁器	碗	9.9 5.1 4.1	外面二重割目文。	波佐見系
81	肥前磁器	碗	10.0 5.1 4.1	外面雪輪帯御文。高台内不明跡。	波佐見系
82	瀬戸・美濃陶器	碗	- - 5.6	内面から高台輪胎輪。高台内から高台輪は端部を除き胎輪を化粧的に掛ける。高台内面中央盛り上がる。	
83	製作地不詳	すり鉢	(34.0) 13.1 (15.8)	底部外面板状で砂付着。外面体部下位型作り。外面は横轆目が残る。口縁部は直線して立ち上がる。口縁部上面は直む。内面のすり目を施した後、口縁部回転胎輪を施す。	内面一部すり目が見えるほど使用する。信楽系?
84	石製品	砥石	10.5 4.2 5.0	1面使用。三角形を呈す。	砥石石
85	石製品	砥石	14.1 2.7 1.2	扁平で楕円形。1面使用。磨り面や流打つ。	砥石石

#### Ⅱ区4号土手(第166回)

番号	種類	器種・器形	計測値(口・高さ)	特徴・その他	備考
86	肥前陶器	碗	(10.9) 7.0 4.6	高台端部を除き透明胎を施す。胎には細かい貫入が入る。	供部手
87	瀬戸・美濃陶器	瓶	(5.0) - -	口縁部は受け口胎をなす。残存部内面から外面に胎輪を施す。唇部外面の一部は胎輪状をなす。	巻判

番号	種類	器種・器形	計測値(口・高さ)	特徴・その他	備考
88	丹波陶器	すり鉢	(29.8) 9.8 (15.0)	底部外面板底で砂付着。底部外面と器部外面の火前側は灰が掛かり白みを帯びる。器部外面下縁磨り後施で。外面磨り目残る。口縁部は肥厚し、内側に突き出す。内面のすり目を施した後、口縁部回転施で。	底部内面から履縁使用により磨滅する。
89	在地系?土器	人形		右手に小柄、左手に袋を持つ。かなり立体的な大黒様。表面を別の型で作りを中央で取り付ける。	大黒様
90	在地系土器	焙烙	(31.2) 4.9 (27.7)	外面底部から器部下位型作り痕残る。型作り直上の継作り痕は無で消す。焼し焼成。	
91	在地系土器	焙烙	(35.0) 4.7 (33.0)	外面底部から器部下位型作り痕残る。型作り直上には継作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	器部外面磨付着。92と同一個体の可能性高い。
92	在地系土器	焙烙	(36.2) 5.0 (33.0)	外面底部から器部下位型作り痕残る。型作り直上には継作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	器部外面磨付着。91と同一個体の可能性高い。
93	在地系土器	焙烙	(39.0) 5.0 (36.2)	外面底部から器部下位型作り痕残る。型作り直上には継作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	器部外面磨付着。
94	在地系土器	焙烙	(38.3) 5.1 (37.0)	器部下位の型作り痕は殆ど無で消す。器部中央には継作り痕明瞭に残る。焼し焼成。	器部外面磨付着。
95	石製品	砥石	(8.4) 2.9 3.1	断面方形。1面使用、他の面には製作痕残る。	砥石

Ⅱ区5号道 (第166区)

番号	種類	器種・器形	計測値(口・高さ)	特徴・その他	備考
96	肥前陶器	甕	(10.8) 9.1 5.1	器高高い、外面密草文を施す。	陶胎磨付
97	肥前磁器	甕	10.4 5.6 4.5	外面に雪輪密草文を施す。高台内不明施。底部付着酸化焼成灰味。	流注見系。焼成不良。
98	肥前磁器	甕	(9.5) 5.1 4.0	外面に雪輪密草文を施す。高台内不明施。	流注見系

Ⅱ区 (第166区)

番号	種類	器種・器形	計測値	特徴・その他	備考
99	石製品	砥石	(9.6) (3.9) (1.8)	定形品、磨り面平面で面取りされている。	建築粘板岩
100	石製品	砥石	(6.3) 2.7 2.1	小型品、角柱状で1面使用。	アイサイト

I 区遺構外 (第167～169回)

番号	種 類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特 徴 ・ そ の 他	備 考
1	瀬戸・美濃陶器	甕	(13.2) 6.0 5.3	高台縁は広く、高台縁は水平に広がる。内面から高台縁白土を施した後、灰釉を掛ける。貫入入る。高台内から高台縁無施。	
2	肥前磁器	甕	13.6 3.5 6.6	見込み蛇の目縁割ぎ。見込みコンニャク割による五弁花。口縁部内面施釉化した唐草文。	底穴見系
3	肥前磁器	甕	13.0 3.2 8.2	体部内面に施釉化した松竹梅文、見込みに五弁花を描く。体部外面は唐草文。高台内は撫面内に「大明年間」施れ跡を描く。	底穴見系。内面の輪使用により推れる。
4	瀬戸・美濃陶器	壺	13.4 3.7 5.8	内面から高台縁に灰釉を施し、口縁部内面に銅緑釉を流す。貫入入る。内面目縁三ヶ所残る。	
5	肥前磁器	甕	12.8 3.7 4.5	体部内面に2重線文を描く。高台縁は小さい。見込み蛇の目縁割ぎ。	底穴見系
6	肥前磁器	甕	12.7 3.8 4.3	体部内面に2重線文を描く。高台縁は小さい。見込み蛇の目縁割ぎ。	底穴見系
7	肥前磁器	甕	12.7 4.9 4.5	体部内面に2重線文を描く。高台縁は小さい。見込み蛇の目縁割ぎ。	底穴見系
8	肥前磁器	小瓶	(6.9) 3.5 2.6	口縁部外面に直線上の線文を描く。	底穴見系?
9	瀬戸・美濃陶器	小香炉	(5.2) 4.6 3.0	輪高台を有する。口縁部内面から体部下位外面に灰釉を施す。	
10	瀬戸・美濃陶器	灯明受皿	8.9 2.1 4.0	底部外面から口縁部外面同軸割り。磨輪施釉後、外面の輪を拭う。受け部に一ヶ所「コ」字状の流入口を設ける。受け部の彫り付けは施。	
11	瀬戸・美濃陶器	灯明皿	8.5 1.8 4.1	底部外面から口縁部外面同軸割り。磨輪施釉後、外面口縁部以下の輪を拭う。	
12	瀬戸・美濃陶器	灯明受皿	9.5 1.7 4.2	底部外面から口縁部外面同軸割り。磨輪施釉後、外面の輪を拭う。受け部に一ヶ所「U」字状の流入口を設ける。	
13	瀬戸・美濃陶器	壺	19.1 20.6 13.1	外面口縁部下に2条凹線を流らす。内面から高台外面緑色の鉄釉を施す。内面底部凹線と口縁部上部に目三ヶ所残る。	
14	瀬戸・美濃陶器	瓶	2.6 - -	肩部は薄で肩、頸部は細く伸びる。体部外面には霞みが一ヶ所残る。他方は欠損。外面から口縁部内部磨輪を施す。	徳利
15	製作地不詳	軒先瓦	- - -	焼き締まるが施しがかかっていない。	
16	在地系?土器	人形	- - -	前後二つの外型で作り、中央で縁合して仕上げする。正座した女性を象る。表面に磨輪れをよくするための光沢を有する彫りが着する。	
17	製作地不詳陶器	壺	(31.6) - -	頸部は非常に短く、口縁部は広い平坦面をなす。外面鉄釉を施した後、頸部に灰釉を流し掛ける。口縁部上面から内面自然釉が薄く残る。	
18	石製品	石臼(下)	径38.5 高さ16.9	厚みがある。よみは浅い。	磨輪礫石安山岩
19	石製品	石臼(上)	径35.0 高さ14.5	厚みがあり、配り穴は上下からの穴い違いあり。焼き手取り付け部は大きく作られている。	磨輪礫石安山岩
20	石製品	石臼	径(29.5)高さ13.6	半分を欠く。摩滅著しい。磨打ち込み穴が見られる。	磨輪礫石安山岩
21	石製品	硯	(6.5) 5.4 (1.7)	磨部の破片、磨滅著しく使用面わずかに観察される。	頁岩
22	石製品	硯石	(8.5) 3.5 1.5	1面使用。一端が薄く舌状となる。	ダイヤモンド
23	石製品	硯石	(9.4) 3.8 (1.5)	定形品の磨削片、風化が著しい。	珪質粘板岩
24	石製品	硯石	13.4 3.0 2.8	2面使用。中央が厚く、両端が薄くなる。磨面に製作痕。	硬質石
25	石製品	硯石	(3.9) 4.0 (1.0)	定形品の磨削片か。	珪質粘板岩
26	石製品	磨石製品	5.3 4.9 2.3	厚みのある円盤状を呈す。中央からややずれた位置に穴が空く。	軽石
27	鉄製品	大打ち金か	5.2 2.8 0.3		
28	鉄製品	釘	4.6 1.7 0.6	頭部分腐食。折れ痕がある。	
29	銅銭				

V区遺構外 (第169～171回)

番号	種類	形状・形	許容値(口・高さ)	特徴・その他	備考
30	在地系土器	皿	9.3 1.8 7.0	底部左回転糸切り無調整。外面の底部と体部境は明瞭であるが、内面は不明瞭。底部内面環状隆起目明瞭。隆起目間の間隔が広く、変容状に見える。	二次的なものか否か不明であるが、内面黒色。
31	輸入系土器	皿	— — (3.2)	小型で器壁が薄く、胎土が緻密である。底部内面と体部境の境目が透り上がった後遺む。	底部外面に不明磨痕。
32	輸入系土器	皿	— — 4.0	小型で胎土は緻密。底部左回転糸切り無調整。底部内面環状隆起目に覆む。	底部外面不明磨痕。
33	在地系土器	皿	9.2 2.5 5.1	底部回転糸切りと思われるが、植物状印痕の付着により不明瞭。内面底部環状隆起目に覆む。見込みは平坦でなく凸凹目立つ。	
34	肥前磁器	碗	10.1 5.2 4.2	外面常輪捺文文。高台内不明跡。	波在見系
35	肥前陶器	碗	10.5 7.0 4.6	外面に山水文を透く。	陶胎付付
36	肥前陶器	碗	11.4 7.1 5.1	外面捺文文と口縁部に簡略化した四方環状文様を透く。	陶胎付付
37	肥前磁器	碗	11.3 4.9 4.2	外面捺文文。見込み蛇の目輪跡。	波在見系
38	瀬戸・美濃陶器	陶形碗	(7.8) 6.7 4.4	外面に鉄絵共で樹木を透く。高台輪から内面反輪を透す。胎土・焼成・胎調共に柳葉碗と同様。	
39	肥前陶器	碗	(10.7) 7.9 4.6	壁は強らず、口縁部は高く延びる。内面から高台内に透明輪を透す。高台端部無輪。貫入入る。	呉器手碗
40	肥前陶器?	碗	12.0 6.7 4.9	高台内を深く括り込む。内面から高台輪に反輪を使用して磨毛で白土を厚く透ける。内面から高台輪に透明輪を透す。意図のか否か不明であるが、体部外面に「」所産みが認められる。	
41	瀬戸・美濃陶器	碗	9.6 5.6 4.6	内面から口縁部外面に根い貫入の入り込む反輪。高台内から体部外面に反輪。他端に環状隆起目。	環状輪
42	肥前磁器	皿	(13.0) 3.6 4.3	見込み蛇の目輪跡。高台径小さい。	波在見系
43	瀬戸・美濃陶器	皿	(22.0) 6.0 8.4	大型の高台から体部は内湾気味に広く開く。口縁部は外方に屈曲する。内面から高台輪に反輪を透す。見込み蛇の目状に輪を透す。貫入入る。	
44	肥前陶器	皿	12.2 3.4 4.0	見込み蛇の目輪跡。口縁部内面に簡略化したため付け。高台内から高台輪無輪。	波在見系
45	肥前陶器	鉢	(38.4) — —	内面方による施文後、白土を透ける。白土は文様部分のみでなく、全体に及ぶ。内面から口縁部外周施輪。	三島手
46	製作地不詳陶器	不詳	(8.4) 8.4 7.1	脚り合った面の文様構成が同様であることから、平面形は正方形と推定される。四方面の面周を骨組み状に囲い、この部分にはやや白濁した透明輪を施す。枠組内には無輪で、磨削によって文様を浮き出させる。底面は欠損するが、残存部から無輪であることが解る。底部の四方は小さく突出して脚状をなす。	
47	京・信楽系陶器	灯明受台	— — 5.0	脚底部外面から周縁丁寧な回転糸切り。脚部外面透明輪。磨かない貫入入る。	
48	在地系土器	焙烙	(38.0) 5.5 (33.6)	外面底部から体部下位製作り痕残る。製作り面上には紐作り痕明瞭に残る。磨し焼成。	体部から口縁部外面付着。口縁部、割製紐で「」所補修。
49	志戸呂陶器	灯明受け皿	10.5 2.4 4.8	体部外反する。受け部は高く、一對のアーチ状流入部を設ける。内面から外面体部下位に鉄痕を施す。	
50	在地系土器	灰蓋とし?	(14.7) 6.7 (9.7)	磨し焼成。口縁部から体部外面は磨き調整。内面調整は粗く、接合痕残る。短い脚を貼り付ける。脚は本末三ヶ所であるが、二ヶ所残存。	口縁部上部器面端と割製する。
51	在地系土器	焙烙	(39.8) 5.0 (35.0)	外面底部から体部下位製作り痕残る。製作り面上には紐作り痕明瞭に残る。磨し焼成。	体部から口縁部外面付着。口縁部、割製紐で「」所補修。
52	在地系土器	焙烙	(38.8) 5.0 (35.0)	外面底部から体部下位製作り痕残る。製作り面上には紐作り痕明瞭に残る。磨し焼成。	体部から口縁部外面付着。口縁部、割製紐で「」所補修。
53	在地系土器	焙烙	(39.0) 5.1 (34.4)	外面底部から体部下位製作り痕残る。製作り面上には紐作り痕明瞭に残る。磨し焼成。	体部から口縁部外面付着。
54	石製品	四石	径(24.1)高さ(11.0)	体状に至す。	二ヶ所修繕
55	石製品	磨石か	径 2.1 厚さ 0.5	表面やや風化。	柱貫軸板石
56	石製品	碗	(2.5) 6.5 (0.9)	薄部の小破片。残存している。	貫石
57	石製品	砥石	(8.9) 2.8 2.6	2面使用、中央が磨り減る。製作痕残る。	砥石
58	石製品	砥石	12.1 2.9 3.3	両端部薄く磨り減る。風化顕著。	砥石
59	石製品	砥石	(5.6) 3.1 3.1	1面使用、使用面は斜めに磨り減る。両端部に製作痕。	砥石
60	石製品	砥石	(8.9) 3.1 2.5	3面使用、端部薄く磨り減る。	砥石
61	石製品	砥石	(7.4) 2.9 4.4	1面使用、端部斜めに磨り減る。製作痕残る。	砥石
62	石製品	砥石	(7.4) 3.9 2.7	4面使用、一端が磨り減る。刀傷らしき痕あり。	砂岩
63	石製品	砥石	(11.4) 4.4 2.3	不定形。側面使用。斜めに磨り減る。	砂岩
64	石製品	石臼(上)	径32.5 高さ 8.4	薄く作られ、ふくみは浅い。後き手取り付け部が付く。	秋鹿石 65と対で混流中より出土。
65	石製品	石臼(下)	径32.5 高さ10.2	ふくみは浅い。	秋鹿石 64と対で混流中より出土。

## 第8節 天明3年以降（0面）

泥流堆積以後の遺構を0面として記載する。II区において建物跡、列石、土坑（墓）が検出されている。この他、近現代の遺構として井戸なども確認されているが、現在まで使用されていたものもあり報告からは除外した。

### II区1号建物跡（172図、P L50）

II区の北端において建物の礎石が東西方向に2列検出されている。検出された礎石は、東西4間（19.0m）、南北1間（4.8m）で北側に延びているものと思われる。南東側は擾乱で大きく壊されている。かなり大きな建物である。礎石は径1m程に掘り込み、中央にやや大きな石1ないしは2段上面が平らになるように置き、廻りに小振りの礫を入れている。西側に南北に走る溝が検出されており、建物跡に伴うものと思われる。

幕末から明治にかけて建てられたものと考えられる。

### II区1号列石（第172図、P L50）

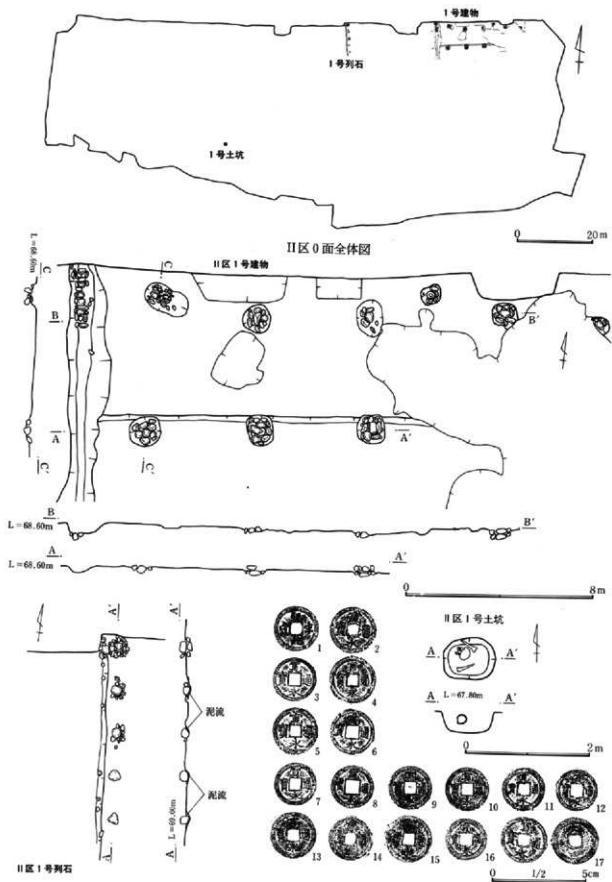
南北に並んだ礎石列である。4間で1間は1.8mである。大きな石をやや掘り窪めて置いた後、廻りに小さな石を入れ込んでいる。西側が一段低くなっており、下がった部分に礫が沿うように置かれている。塙の基礎であろうか。

### II区1号土坑（墓）（第172図、P L50・73）

28k-4グリッドに位置する。丸みを持った隅丸長方形を呈し東西に軸を持つ。長軸80cm、短軸65cmで深さは約30cmである。覆土は泥流土を多く含んだ土で埋まる。人骨1体が出土している。座棺で西を向いて葬られている。遺存状態は良好である。銅銭17枚（寛永通宝）が出土。時期は天明3年以降である。

II区0面1号土坑（第172図）

番号	種	類	計測値	特徴・その他	備考
1	銅銭	寛永通宝		初鋳1101年	
2	銅銭	寛永通宝			
3	銅銭	寛永通宝			
4	銅銭	聖徳元宝			
5	銅銭	寛永通宝			
6	銅銭	寛永通宝			
7	銅銭	寛永通宝			
8	銅銭	寛永通宝			
9	銅銭	寛永通宝			
10	銅銭	寛永通宝			
11	銅銭	寛永通宝			
12	銅銭	寛永通宝			
13	銅銭	寛永通宝			
14	銅銭	寛永通宝			
15	銅銭	寛永通宝			
16	銅銭	寛永通宝			
17	銅銭	寛永通宝		背「文」字	



第172图 II区0面遺構図



## 第9節 上福島中町遺跡出土人骨

植崎 修一郎

はじめに

上福島中町遺跡は、群馬県玉村町上福島中町に所在し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成13(2001)年4月～平成14(2002)年11月まで行われた。本遺跡のⅠ区3面38号土坑より中世の火葬人骨が、Ⅱ区0面1号土坑より近世の土葬人骨が、Ⅱ区5面38号土坑より平安時代の火葬人骨が、Ⅱ区3面28号土坑・同49号土坑・同62号土坑・同82号土坑より中世の土葬人骨が出土したので、以下に報告する。なお、人骨は、水洗後できる限りの接着復元を行った後、写真撮影・計測・観察を行った。人骨の計測はマルティン [Martin] の方法に従った(馬場, 1991)。また、歯の計測は藤田の方法に従った(藤田, 1949)。

### 1. Ⅰ区3面38号土坑出土火葬人骨

この火葬跡については、本報告者が発掘した。しかしながら、発掘最終日の最終確認段階で発見されたために、わずか数時間で発掘せざるを得なかった。また、火葬跡の上に砂層が約1.5m堆積していたためにその砂層を除去することを断念し、横から発掘を行わざるを得なかった。従って、取り上げの方法及び記録が不十分であることは否めないが、時間的余裕が無かったことを付記しておく。

#### (1) 火葬人骨の出土状況

人骨は、長軸約1.15m、短軸約60cmの土坑より出土している。人骨の下には、剥片状の石を敷き詰めており、さらに、北部の頭蓋骨下には枕石のように大きな石を置いてあった。

#### (2) 火葬人骨出土部位

火葬人骨の出土部位は、ほぼ全身におよぶ。しかしながら、頭蓋骨や四肢骨の主立った部分は取骨されている。このような取骨状況は、現代に続く、主立った人骨を取骨する西日本タイプの取骨方法であろう(植崎, 2002)。

#### (3) 火葬の方法

火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。

#### (4) 被火葬者の個体数

火葬人骨の出土部位には明らかな重複部位は認められないため、被火葬者の個体数は1個体と推定される。

#### (5) 被火葬者の性別

火葬による人骨の収縮を考慮しても火葬人骨は全体に小さく、頭蓋骨の厚さも薄いため、被火葬者の性別は女性的であるが、左前頭骨眼窩部の眼窩縁は円みを帯びているため、被火葬者の性別は男性と推定される。恐らく、小柄な男性なのであろう。

#### (6) 被火葬者の死亡年齢

被火葬者の死亡年齢推定指標となる部位が出土していないが、腰骨の椎体辺縁部に骨棘の形成が認められた。この骨棘は、一般的には高齢に達すると形成されると言われているが、重労働に従事すると形成が早まるとも言われており、指標とするには困難である。しかしながら、被火葬者の性別は、若年ではなく、恐らく中年であろう。

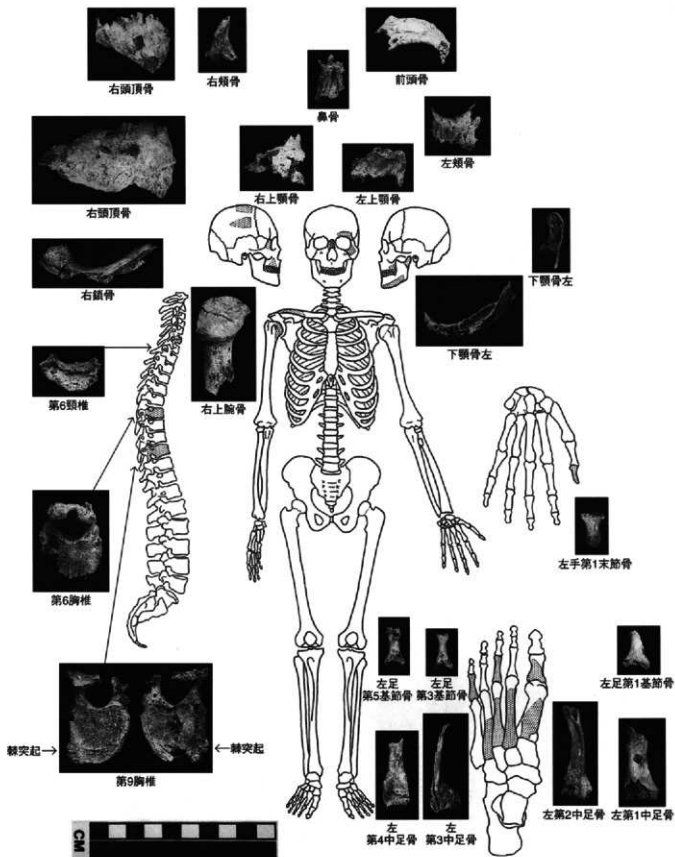


写真1.上福島中町遺跡 | 区3面38号土坑出土人骨

## 2. II区0面1号土坑出土人骨

### (1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸約80cm、短軸約65cmの土坑より出土している。時代は、地層及び出土遺物より、天明三(1783)年以降の江戸時代に比定されている。

### (2) 人骨の出土部位

頭蓋骨の右半分・下顎骨・胸骨・第1・2頸椎、第10・11・12胸椎、仙骨・左上腕骨・左尺骨・左橈骨・左寛骨・左右大腿骨・左脛骨・左距骨等が出土している。

### (3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土部位より、被葬者の頭位は北側で、右下横臥屈葬である。

### (4) 被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

### (5) 被葬者の性別

頭蓋骨では、眼眶上縁部の円み・乳様突起の発達・側頭線の発達・外後頭隆起の発達が認められ、下顎骨では下顎体の形状が鈍角である。また、寛骨の大座骨切痕の角度が鋭角である。従って、被葬者の性別は男性であると推定される。

### (6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋縫合を見ると、冠縫合は外板は癒合していないが内板は癒合している。矢状縫合は、外板内板共に癒合していない。ラムダ(人字)縫合は、外板は癒合していないが内板は癒合している。従って、死亡年齢は30歳代となる。また、口蓋縫合では、切歯縫合と正中口蓋縫合の口蓋骨部は癒合しており、正中口蓋縫合の上顎骨部と横口蓋縫合は癒合していない。従って、死亡年齢は31歳以上となる。歯の咬耗度を見ると、一部、象牙質が露出するブローカ(Broca)の2度である。従って、死亡年齢は30歳代となる。総合的に、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

### (7) 被葬者の生前の身長

保存状態の良かった、左大腿骨と左脛骨の全長を計測すると、左大腿骨が417mm、左脛骨が345mmであった。この最大長より生前の身長を推定すると、左大腿骨からは157.8cm、左脛骨からは158.9cmとなった。また、大腿骨と脛骨を合わせた身長推定では、158.6cmと推定された。さらに、重回帰方程式では、159cmと推定された。従って、被葬者の生前の身長は、約158cm～159cm [157.8cm～158.9cm] と推定される。北里大学の平本嘉助による江戸時代人骨の右大腿骨を使用した研究では、江戸時代人男性の平均身長は157.1cm [最大167.2cm、最小147.2cm] であり、女性の平均身長は145.6cm [最大157.1cm、最小137.6cm] である(平本、1972)。本個体は、江戸時代人男性の平均身長よりはやや高いが、変異の中に含まれる。

### (8) 人骨の病変

上顎骨及び下顎骨を見ると、一部破損しているが歯槽骨の取心が認められ、歯の生前脱落が認められた。それらは、上顎右第2小臼歯・同第2大臼歯、下顎左右第2小臼歯・同左右第2大臼歯の6本である。ちなみに、これらの歯の萌出時期は、約11歳～12歳であり、ほぼ同じ時期である。従って、その時期に俗に虫歯と呼ばれる齲蝕に罹患し、その後、生前脱落があった可能性がある。また、残存するすべての歯に歯石の付着が認められた。これは、柔らかい食物を摂取することにより起きると考えられている。

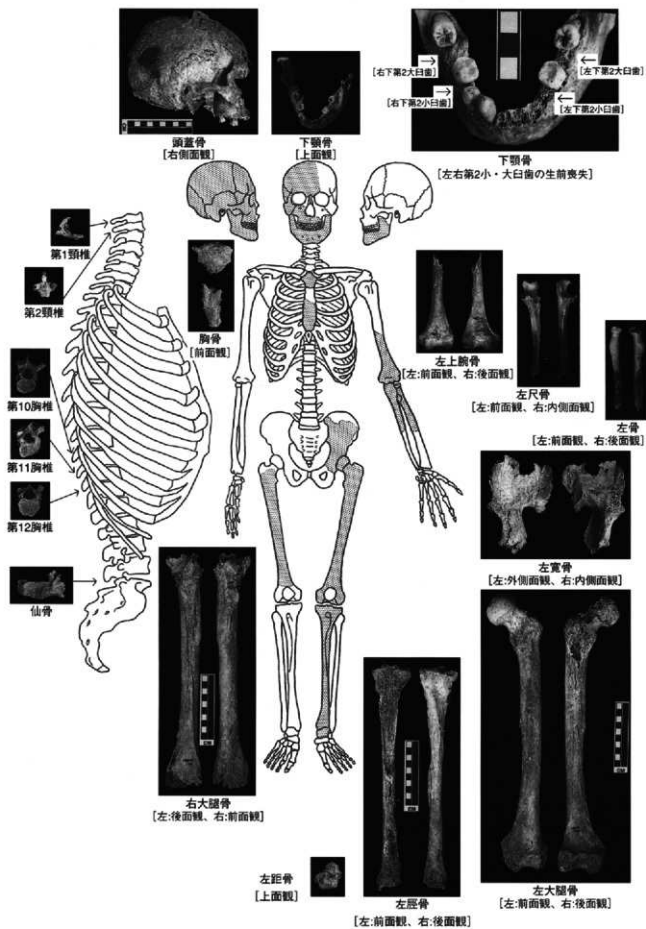


表1. II区0面1号土坑出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	上福島中町遺跡		江戸時代人*		現代日本人**		
		右	左	♂	♀	♂	♀	
上	I1	MD	—	9.1	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	—	6.9	7.52	7.06	7.35	7.28
	C	MD	8.8	8.5	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	9.6	9.6	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	—	7.4	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	—	9.4	9.67	9.33	9.59	9.43
M1	MD	11.0	11.1	10.61	10.18	10.68	10.47	
	BL	12.1	12.2	11.87	11.39	11.75	11.40	
M2	MD	—	10.5	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	—	12.6	12.00	11.52	11.85	11.31	
M3	MD	10.0	—	—	—	8.94	8.86	
	BL	11.5	—	—	—	10.79	10.50	
下	I2	MD	—	(5.9)	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	—	6.4	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	7.5	7.3	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	8.3	8.3	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	7.4	—	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.6	—	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	—	—	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	—	—	8.68	8.30	8.53	8.25
	M1	MD	12.4	12.1	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	11.7	11.7	11.15	10.62	10.89	10.55
	M3	MD	12.1	12.2	—	—	10.96	10.65
		BL	11.7	11.4	—	—	10.28	10.02

注1:計測値の単位は、すべて、「mm」である。

注2:歯種は、I1(第1切歯)・I2(第2切歯)・C(犬歯)・P1(第1小臼歯)・P2(第2小臼歯)・M1(第1大臼歯)・M2(第2大臼歯)・M3(第3大臼歯)を意味する。

注3:MD(歯冠遠心径)・BL(歯冠唇舌径)を意味する。

注4:「歯種」とあるのは、歯が磨滅しているため歯種でなかったことを示す。

注5:計測値が、「—」で覆われているものは、咬痕により計測値に影響を受けている可能性を示す。

注6:●はMATSUMURA(1995)より、\*\*は藤田(1952)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大臼歯のデータは含まれていない。

表2. 頭蓋骨の非計測的形質

観察項目	観察結果	
	右	左
1. 前額縫合	無し	無し
2. 額窩上神経溝	破損	破損
3. 額窩上孔	破損	破損
4. ラムダ小骨	破損で観察不能	—
5. インカ骨	破損	—
6. 横後頭縫合痕跡	無し	破損
7. アステリオン小骨	有り	破損
8. 後頭乳突縫合骨	無し	破損
9. 頭頂切痕	無し	破損
10. 額骨開存	有り	破損
11. 前額突起	無し	無し
12. 後額突起	破損	破損
13. 舌下神経二分	無し	破損
14. 鼓室骨開閉	有り	破損
15. 卵円孔縁孔連続	無し	破損
16. 内側口蓋管	無し	無し
17. 横骨骨癒合痕跡	有り	破損
18. 鼓静脈孔二分	無し	破損
19. 矢状溝溝左折	破損で観察不能	—
20. 顎舌骨神経管	無し	無し

注:「破損」は、骨が破損で観察不能を示す。

表3. II区0面1号土坑出土人骨四肢骨計測値及び比較表

		江戸時代人*		現代人**				
		♂	♀	♂	♀			
上腕骨(左のみ)	11. 滑車幅	23.5mm	—	23.1mm	18.8mm	23.6mm	19.1mm	
	11a. 滑車幅	27mm	—	—	—	—	—	
	12. 小頭幅	17mm	—	17.1mm	15.1mm	17.1mm	14.4mm	
	12a. 滑車小頭幅	44mm	—	40.8mm	33.9mm	40.8mm	35.1mm	
	12b. 小頭幅	21mm	—	—	—	—	—	
	12c. 小頭高	22mm	—	—	—	—	—	
	13. 関節窩幅	27mm	—	25.6mm	21.6mm	25.5mm	21.6mm	
	14. 肘窩窩幅	26mm	—	27.3mm	24.4mm	27.0mm	24.3mm	
	15. 肘窩窩深	9mm	—	12.5mm	12.2mm	11.9mm	11.1mm	
	橈骨(左のみ)		♂	♀	♂	♀		
		4. 骨体横径	14mm	—	16.6mm	14.4mm	16.5mm	14.6mm
		4(2). 桡横径	13mm	—	—	—	—	—
		5. 骨体矢状径	11mm	—	11.9mm	9.8mm	11.8mm	9.8mm
		5(2). 桡矢状径	13.5mm	—	—	—	—	—
	5:4 骨体断面示数	78.6	—	71.8	68.4	71.8	67.4	
尺骨(左のみ)		♂	♀	♂	♀			
	5(1) 近位関節面高	35mm	—	37.7mm	32.9mm	—	—	
	5(2) 滑車関節面高	27mm	—	28.5mm	24.7mm	—	—	
	7. 肘窩深	27mm	—	24.1mm	21.2mm	—	—	
大腸骨(左右)		♂	♀	♂	♀			
	1. 大腸骨最大長	417mm	—	413.8mm	377.9mm	412.1mm	381.8mm	
	6. 骨体中央矢状径	26mm(右) 26mm(左)	—	28.3mm	24.8mm	27.6mm	24.5mm	
	7. 骨体中央横径	29mm(右) 29mm(左)	—	27.4mm	24.1mm	26.3mm	23.0mm	
	9. 骨体上横径	32mm(右) 33mm(左)	—	30.7mm	26.5mm	31.0mm	27.9mm	
	6:7	89.7	89.7	103.9	103.1	105.4	107.3	
	脛骨(左のみ)		♂	♀	♂	♀		
		1a. 脛骨最大長	345mm	—	331.2mm	305.8mm	325.3mm	302.4mm

●: 遠藤・北原・木村(1967)より引用

\*\* : 上腕骨(西原(1952))・橈骨(藤田(1951))・尺骨(藤田(1951))・大腸骨(大場(1950))・脛骨(鈴木(1961))より引用

### 3. II区5面38号土坑出土火葬人骨

約4cm～5mmの火葬人骨が、約100片出土している。火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているの、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。火葬人骨の出土量は少なく、丁寧に取骨されているので、恐らく現代にも続く東日本タイプの取骨方法であろう(檜崎, 2002)。人骨の出土量は少ないが、被火葬者の個体数は1個体で、1本のみ認められた歯の歯根の大きさより、被火葬者の性別は女性で、死亡年齢は不明であるが、恐らく成人であろう。

### 4. II区3面28号土坑出土人骨

#### (1) 人骨の出土状況・頭位

人骨は、長軸約1.35m、短軸約90cmの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

#### (2) 人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

#### (3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、人骨の頭位は北側で、顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

#### (4) 被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

#### (5) 被葬者の性別

歯の歯冠計測値より、被葬者の性別は男性と推定される。

#### (6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの2度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

#### (7) 歯の病変

出土歯の永久歯歯冠17本には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

### 5. II区3面49号土坑出土人骨

#### (1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸約1m、短軸約80cmの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

#### (2) 人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

#### (3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で、顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

#### (4) 被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

#### (5) 被葬者の性別

外後頭隆起は良く発達しており、外後頭隆起と内後頭隆起との距離は約18mmある。また、歯の歯冠計測値

より、計測値が比較的大きく、総合的に被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの2度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

(7) 歯の病変

出土歯の永久歯歯冠9本には、齶蝕及び歯石は、認められなかった。

## 6. II区3面62号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸約1m、短軸約80cm～90cmの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

(2) 人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者は2体が合葬されており、出土人骨の出土位置より、2体共に、頭位は北側で顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

被葬者の個体数は、明らかに2個体である。

(5) 被葬者の性別

2個体の被葬者の内、西側に埋葬されている個体は、恐らく女性であろう。また、東側に埋葬されている個体は、子供であるが、歯冠計測値より、男性(男児)である可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

2個体の被葬者の内、西側に埋葬されている個体は、歯が1本も出土しておらず、出土時の写真で見える限り、生前に歯が脱落した無歯顎の状態である。従って、老齢であると推定される。また、東側に埋葬されている個体は、歯が乳歯と永久歯との混合歯の状態である。歯の萌出状態より、死亡年齢は約4歳と推定される。

(7) 歯の病変

出土歯の乳歯歯冠7本及び永久歯歯冠12本には、齶蝕及び歯石は認められなかった。

## 7. II区3面82号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸約1.2m、短軸約90cm～1mの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

(2) 人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で顔を西側に向けた右下横臥屈葬と推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体であろう。

(5) 被葬者の性別

歯の歯冠計測値より、計測値が比較的大きく、被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの2度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

(7) 歯の病変

出土歯の永久歯冠13本には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

まとめ

上福島中町遺跡のI区3面38号土坑より火葬人骨が、II区0面1号土坑より近世の土葬人骨が、II区5面38号土坑より平安時代の火葬人骨が、II区3面28号土坑・49号土坑・62号土坑・82号土坑より中世の土葬人骨が出土した。I区3面38号火葬跡には、中年の男性が火葬に付されたと推定された。また、II区0面1号土坑には身長約158cm～159cmの約30歳代の男性が埋葬されたと推定された。II区5面38号土坑には、成人女性が火葬に付されたと推定された。さらに、II区3面28号土坑には約40歳代の男性が、49号土坑には約40歳代の男性が、62号土坑には老齢の女性と約4歳の男性(男児)の2個体が、82号土坑には約40歳代の男性が埋葬されたと推定された。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、出土人骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小野和之氏に感謝いたします。

引用文献

- 馬場悠男 1991 『人類学講座巻1. 人体計測法、II人骨計測法』、雄山閣出版  
藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、『人類学雑誌』、61:1-6.  
権田和良 1959 歯の大きさの性差について、『人類学雑誌』、67(3):47-59.  
平本嘉助 1972 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化、『人類学雑誌』、80(3):221-236.  
MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum  
橋崎修一郎 2002 下小島神戸遺跡出土火葬人骨、『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』、20:43-50.



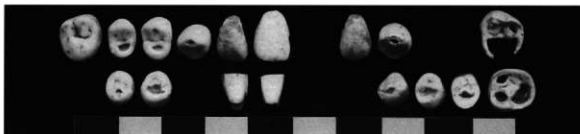


写真3.上福島中町遺跡26号土坑出土人骨

右上	M1	P2	P1	C	I2	I1	I2	C	M1	左上		
右下		P2	P1		I2	I1		C	P1	P2	M1	左下

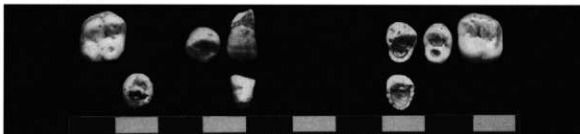


写真4.上福島中町遺跡49号土坑出土人骨

右上	M1		C	I2				P1	P2	M1	左上	
右下			P2		I2			P1				左下

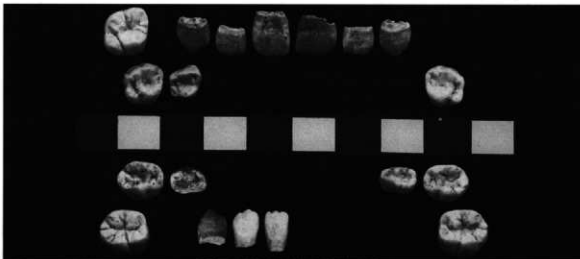


写真5.上福島中町遺跡62号土坑出土人骨

右上	M1			C	I2	I1	I2	C			左上	
右下	M1	m2	m1						m1	m2	M1	左下

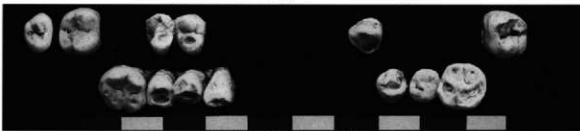


写真6.上福島中町遺跡82号土坑出土人骨

右上	M3	M2		P2	P1			C		M2	左上	
右下				M1	P2	P1	C		P1	P2	M1	左下

表4. 上福島中町遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	上福島中町遺跡出土人骨						鎌倉時代人*		江戸時代人*		現代日本人**			
		28号土坑		49号土坑		62号土坑		82号土坑		♂	♀	♂	♀	♂	♀
		右	左	右	左	右	左	右	左						
I 1	MD	破損	—	—	—	8.9	8.9	—	—	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
	BL	破損	—	—	—	破損	破損	—	—	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
I 2	MD	7.3	7.4	7.1	—	7.2	7.3	—	—	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
	BL	6.8	6.6	6.4	—	破損	破損	—	—	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
C	MD	7.9	7.8	8.0	—	7.5	7.2	—	7.9	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
	BL	8.2	8.3	8.5	—	破損	破損	—	8.3	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
P 1	MD	7.2	—	—	7.0	—	—	7.1	—	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
	BL	10.1	—	—	9.4	—	—	9.4	—	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
P 2	MD	6.3	—	—	6.8	—	—	6.4	—	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
	BL	9.2	—	—	9.7	—	—	8.9	—	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
M 1	MD	9.8	9.8	10.2	10.2	10.6	—	—	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47	
	BL	10.6	破損	11.5	11.5	11.0	—	—	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40	
M 2	MD	—	—	—	—	—	—	9.6	9.6	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
	BL	—	—	—	—	—	—	11.2	11.2	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
M 3	MD	—	—	—	—	—	—	6.8	—	—	—	—	—	8.94	8.86
	BL	—	—	—	—	—	—	9.3	—	—	—	—	—	10.79	10.50
I 1	MD	5.7	—	—	—	5.7	—	—	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47	
	BL	6.0	—	—	—	破損	—	—	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77	
I 2	MD	6.1	—	5.8	—	6.2	—	—	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11	
	BL	5.5	—	6.0	—	破損	—	—	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	
C	MD	—	6.9	—	—	—	6.9	—	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68	
	BL	—	7.8	—	—	—	8.3	—	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50	
P 1	MD	7.2	6.8	—	6.5	—	—	6.8	7.0	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
	BL	8.3	8.6	—	8.1	—	—	8.3	歯石	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
P 2	MD	6.6	6.8	6.9	—	—	—	7.0	7.2	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
	BL	8.1	8.3	8.3	—	—	—	8.4	8.8	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
M 1	MD	—	10.8	—	—	11.4	11.3	11.3	11.1	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
	BL	—	10.1	—	—	10.9	10.8	11.4	11.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
M 2	MD	—	—	—	—	—	—	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	—	—	—	—	—	—	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	

註1：計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2：歯種は、I1（第1切歯）・I2（第2切歯）・C（犬歯）・P1（第1小白歯）・P2（第2小白歯）・M1（第1大白歯）・M2（第2大白歯）・M3（第3大白歯）を意味する。

註3：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇舌径）を意味する。

註4：「破損」とあるのは、歯が破損しているため計測できなかったことを示す。

註5：「歯石」とあるのは、歯石が付着しているため計測できなかったことを示す。

註6：\*はMATSUMURA (1995) より、\*\*は藤田 (1955) より引用。なお、MATSUMURA (1995) には、第3大白歯のデータは含まれていない。

## 第10節 上福島中町遺跡出土獣骨

檜崎 修一郎

はじめに

上福島中町遺跡は、群馬県佐波郡玉村町上福島中町に所在し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成13(2001)年4月～平成14(2002)年11月まで行われた。本遺跡のⅡ区2号土坑より獣骨を加工した使用用途不明物が、またⅥ区2号建物より加工したイヌあるいはオオカミの下顎骨が出土したので以下に報告する。

### 1. Ⅱ区2号土坑出土獣骨

全長50mm～60mmの加工獣骨である。残念ながら、獣骨の種類や部位を同定することはできなかった。この獣骨には、全長70mm・幅6mm～7mmの金属片が付着している。金属の錆で塞がっているが、内測から確認すると、五角形の点に直径約4mm～5mmの円形の孔が5つずつ2ヶ所に穿たれており、花の梅か桜を表しているかと推定される。また、これとは別にやはり花の梅か桜の花びらを彫刻した箇所が2ヶ所認められる。いづれにしても、この加工獣骨の使用目的及び獣骨の種類や部位を明らかにすることはできなかった。将来的に、動物考古学の専門家に鑑定依頼をする必要がある。

### 2. Ⅵ区2号建物出土獣骨

全長約40mmのイヌ (*Canis familiaris*) あるいはオオカミ (*Canis lupus*) の、下顎左犬歯及び同第1小白歯・同第2小白歯部の下顎骨が出土している。犬歯は、下顎骨に植立している。また、第1小白歯及び第2小白歯の歯冠部は、破損している。外測面に金属の小片が、また内測面には金属の大片が付着している。加工した目的は不明であるが、イヌやオオカミでは下顎骨が左右2つに分かれるため、これをつないだ跡かもしれない。

オオカミは、1800年代末に北海道から、1905年には本州で絶滅したと考えられている。オオカミは、イヌの祖先である。オオカミとイヌとの区別は、オオカミでは左右の眼窩の上端と頬骨の上端とを結ぶ角度がイヌに比べて大きく、つまり頬骨が横に広がっていること・吻部の凹度(ストップ)が小さいこと、裂肉歯が大きいこと等で区別できるとされている。しかしながら、今回、完全な頭蓋骨が出土しておらず、これらの点を確認することはできない。

本出土獣骨の犬歯の近遠心径は7.4mm、唇舌径は12mmであり、計測値が比較的大きい。ちなみに、写真で比較した現生イヌ標本(本報告者所蔵)では、近遠心径は7.3mm、唇舌径は11mmである。しかしながら、この計測値だけでオオカミと断定することはできない。特に、近世には外国産のイヌも輸入されている。従って、イヌ科としてとどめておく。将来的に、動物考古学の専門家に鑑定依頼をする必要がある。

### 謝辞

本出土獣骨を報告する機会を与えていただき、出土獣骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小野和之氏に感謝いたします。

### 引用文献

- 阿部 永監修 1994 『日本の哺乳類』、東海大学出版会  
谷口研語 2000 『犬の日本史』、PHP新書  
日高敏隆監修 1996 『日本動物大百科1、哺乳類I』、平凡社



写真1.上福島中町遺跡II区2号土坑出土加工獣骨

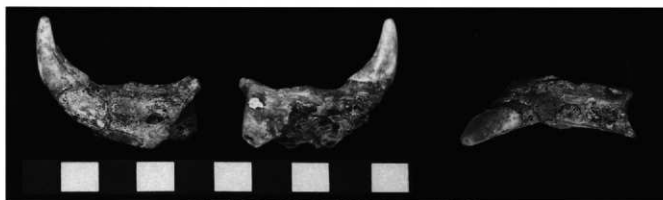


写真2.上福島中町遺跡VI区2号建物出土加工イヌ科下顎骨  
[左から、外側面観・内側面観・上面観]



写真3.上福島中町遺跡VI区2号建物出土加工イヌ科下顎骨と現生イヌ標本との比較

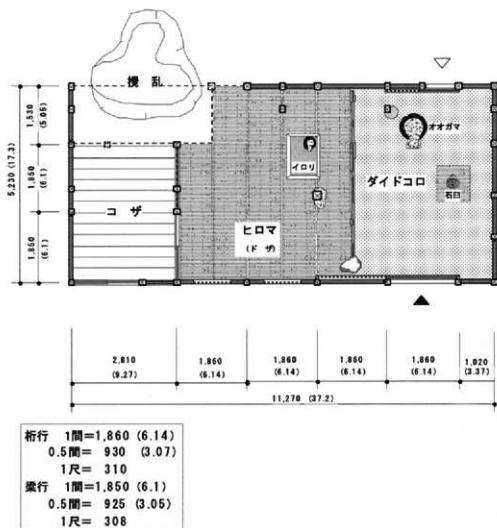
## 第4章 まとめ

### 1. 面検出建物跡の間取り構造について

本遺跡において検出された建物については、16棟中10棟が母屋（内便所を持つもの1）ないしは納屋1（掘立柱建物）、他の6棟は便所である。このうち、掘立柱建物1棟および部分のみの調査である1棟を除き、全掘した8棟について検出した礎石の配列、および建物内の施設、床や壁等の調査所見を元で作成した間取り推定図を以下に示しておく。（推定間取り図の作成は石井榮一氏による。）

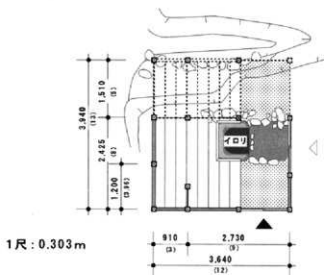
### Ⅱ区1号建物跡推定平面図

S=1/100



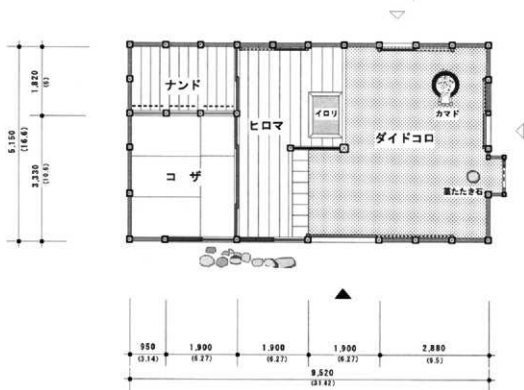
## Ⅱ区3号建物跡推定平面図

s=1/100



## Ⅱ区4号建物跡推定平面図

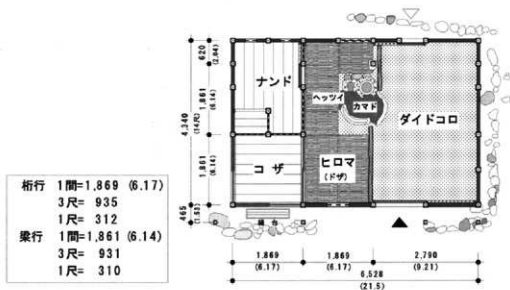
S=1/100



1間 : 6.27尺 (1,900)  
 3尺 (950)  
 1尺 (314)

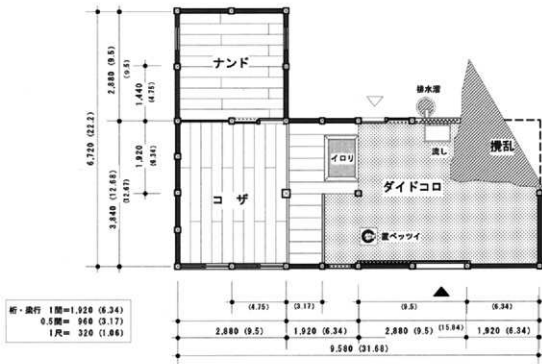
## II区6号建物跡推定平面図

s=1/100



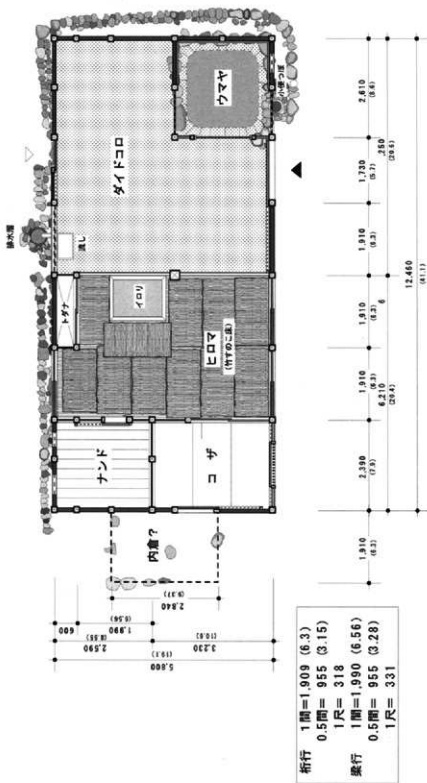
## VI区1号建物跡推定平面図

S=1/100



VI区2号建物跡推定平面図

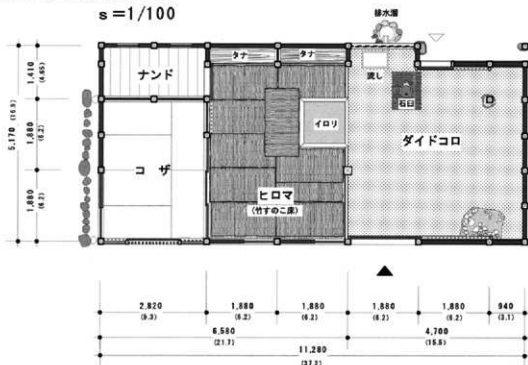
s = 1/100





VI区3号建物跡推定平面図

s = 1/100



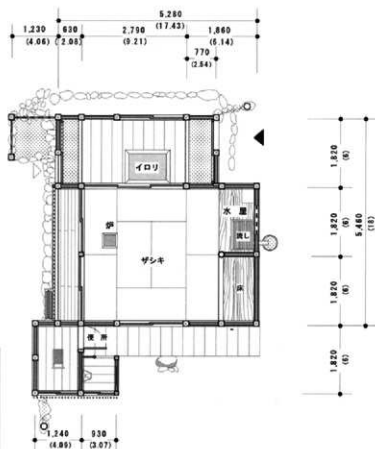
桁・梁行 1間=1,880 (6.2)

0.5間 = 939 (3.1)

1尺 = 313

VI区6号建物跡推定平面図

S=1/100



桁行 1間=1,820 (6)

0.5間 = 910 (3)

1尺 = 303

梁行 1間=1,860 (6.14)

0.5間 = 930 (3.07)

1尺 = 310

# 写 真 图 版





II区7面全景 東より



II区6面全景 東より



I区5面全景 東より



I区5面1号住居跡 北より



I区5面2・3号住居跡 西より



I区5面4号住居跡 西より



I区5面5～8号住居跡 西より



I区5面7号住居跡礎 西より



I区5面1号獨立柱建物跡 西より



II区5面全景 東より



II区5面全景 西より



II区5面1号住居跡 北より



II区5面1号住居跡 西より



II区5面2号住居跡 西より



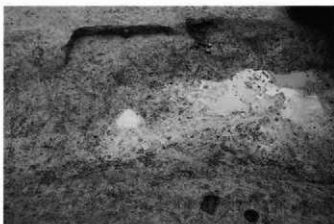
II区5面2号住居跡 西より



II区5面3・4号住居跡 西より



II区5面4号住居跡 西より



II区5面5号住居跡 西より



II区5面6号住居跡 西より



II区5面7号住居跡 西より



II区5面7号住居跡裏 西より



II区5面8号住居跡 西より



II区5面9号住居跡 西より



VI区5面全景 上空より





VI区5面1号住居跡 西より



VI区5面2号住居跡 西より



VI区5面3号住居跡 西より



VI区5面4・5号住居跡 南より



VI区5面4・5号住居跡裏 西より



VI区5面6号住居跡 北より



VI区5面7号住居跡 北より



VI区5面8号住居跡 北より



VI区5面9号住居跡 西より



VI区5面10号住居跡 西より



II区5面21号土坑遺物出土状態



II区5面37号土坑 北より



II区5面38号土坑遺物出土状態



II区5面横列検出状況 南より



II区5面1号道状遺構 南より



II区5面1・2号溝 北より



II区4面全景 東より



II区4面全景 上空より



I区4面全景 東より



II区4面復旧畠 南より



II区4面10・11号溝 北より



VI区4面1号溝 南より



II区3面全景 上空より



II区3面全景 上空より



II区3面全景 西より



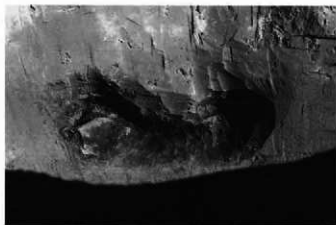
I区3面全景 北より



II区3面全景 東より



II区3面全景 東より



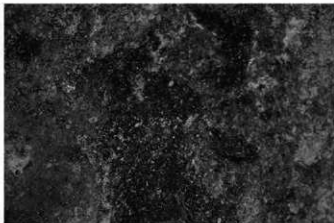
I区3面38号土坑 西より



II区3面3号土坑 北より



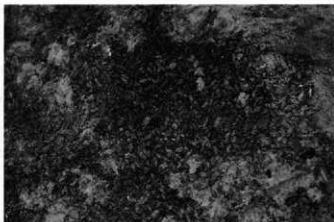
II区3面24号土坑 南より



II区3面24号土坑炭化米出土状況



II区3面28号土坑人骨出土状況



II区3面37号土坑炭化米出土状況



II区3面40号土坑遺物出土状況



II区3面49号土坑人骨出土状況



II区3面49号土坑人骨出土状況



II区3面62号土坑人骨出土状況



II区3面82号土坑人骨出土状況



II区3面114号土坑 南より



II区3面243号土坑遺物出土状況



II区3面255号土坑 東より



II区3面2号畚 北より



II区3面2号畚断面 南より



II区3面1号溝断面 東より



II区3面1号溝推し銭出土状況





II区3面3号溝断面 北より



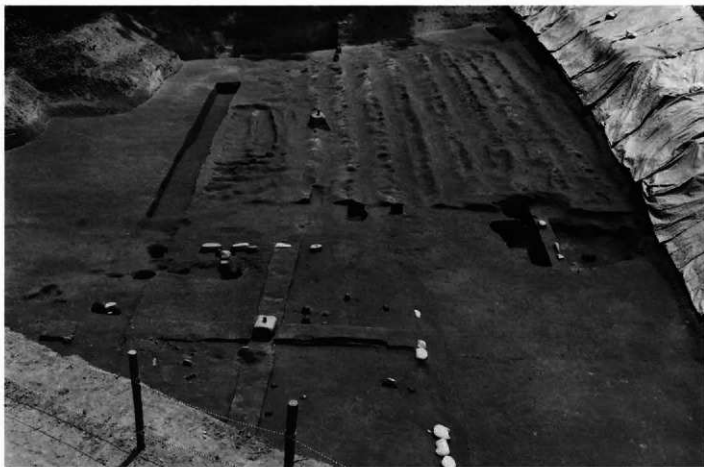
VI区3面1号溝断面 西より



VI区3面1号溝折れ状況 西より



VI区3面1号溝 東より



I区2面全景 西より



I区2面1号建物跡 南より



VI区2面1号建物跡遺物出土状況



VI区2面1・2号建物跡 北より



VI区2面1・2号建物跡 南より



VI区1面(手前)・2面(奥)全景 西より



VI区2面1号掘立柱建物跡 西より



VI区2面8号建物跡旧便槽跡



II区2面1号畑 南より



II区2面2号畑 西より



II区2面畑及び1面畑断面 南より



II区2面復旧溝 北より



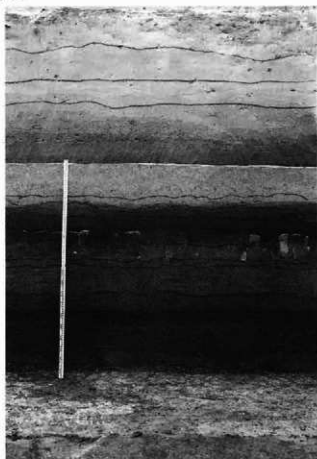
I区1面畑全景 西より



II区調査前風景 東より



II区1面全景 上空より



II区北壁基本土层



I区西壁基本土层



II区I面1号建物跡断面 北より



II区1面1号建物跡遺物出土状況



II区1面1号建物跡遺物出土状況



II区1面1号建物跡遺物跡囲炉裏 南より



II区1面1号建物跡囲炉裏 南より



II区1面1号建物跡竈 南より



II区1面1号建物跡全景 西より



II区1面3号建物跡断面 北より



II区1面3号建物跡全景 南より



II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面4号建物跡遺 南より



II区1面4号建物跡全景(北側部分)



II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面4号建物跡圓炉裏 南より



II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面4号建物跡床材炭検出土状況



II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況





II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡囲炉裏 南より



II区1面6号建物跡電釜出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡遺物出土状況



II区1面6号建物跡全景 南より



IV区1面全景 南より



VI区1面1号建物跡壁検出状況 西より



VI区1面1号建物跡壁検出状況 北より



Ⅵ区1面1号建物跡遺物出土状況 東より



Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況 南より



Ⅵ区1面1号建物跡壁検出遺跡状況 北より



Ⅵ区1面1号建物跡壁状況



Ⅵ区1面1号建物跡壁断面



Ⅵ区1面1号建物跡壁状況 北より



Ⅵ区1面1号建物跡囲炉裏 東より



Ⅵ区1面1号建物跡全景(南側部分) 北より



VI区1面1号建物跡断面 北より



VI区1面1号建物跡壁検出状況



VI区1面1号建物跡床材検出状況



VI区1面1号建物跡遺物出土状況



VI区1面1号建物跡構造小判出土状況



VI区1面1号建物(北側部分) 北より



VI区1面1号建物跡内伊裏



VI区1面1号建物跡竈検出状況



Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況



Ⅵ区1面1号建物跡柱痕・遺物出土状況



Ⅵ区1面1号建物跡柱・壁痕



Ⅵ区1面1号建物跡壁竹小舞痕



Ⅵ区1面1号建物跡竹材痕



Ⅵ区1面1号建物跡電検出状況 東より



Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況 西より



Ⅵ区1面1号建物跡(南側部分) 東より



VI区1面2号建物跡(北側部分) 北より



VI区1面2号建物跡遺物出土状況 南より



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡排水坑全景



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡囲炉裏遺物出土状況



VI区1面2号建物跡再壁排水坑全景



VI区1面2号建物跡礎石番付



VI区1面2号建物跡礎石番付



VI区1面2号建物跡礎石番付



VI区1面2号建物跡(東側部分) 南より



VI区1面2号建物跡(東側部分) 東より



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡団炉 南より



VI区1面2号建物跡遺物出土状況



VI区1面2号建物跡礎石番付



VI区1面2号建物跡礎石番付

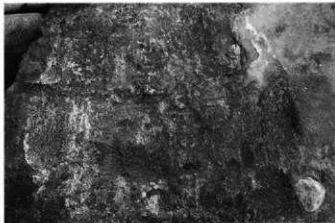


VI区1面2号建物跡礎石番付





Ⅵ区1面3号建物跡断面 南より



Ⅵ区1面3号建物跡ムシロ痕



Ⅵ区1面3号建物跡竹スノコ痕



Ⅵ区1面3号建物跡竹スノコ痕



Ⅵ区1面3号建物跡遺物出土状況 南より



Ⅵ区1面3号建物跡遺物出土状況



Ⅵ区1面3号建物跡石臼下窰痕



Ⅵ区1面3号建物跡排水坑全景



VI区1面3号建物跡全景 南より



VI区1面3号建物跡竹スノコ復検出状況



VI区1面3号建物跡床柱痕 南より



VI区1面3号建物跡囲炉裏 西より



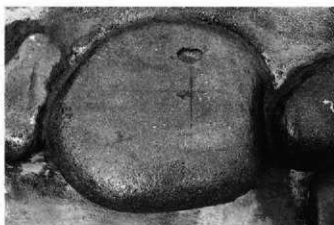
VI区1面3号建物跡石臼出土状況



VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面3号建物跡礎石番付



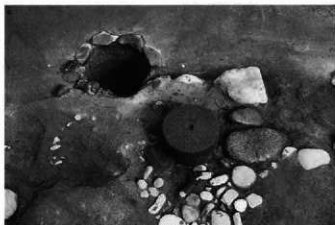
VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面3号建物跡断面 南より



VI区1面3号建物跡出土状況



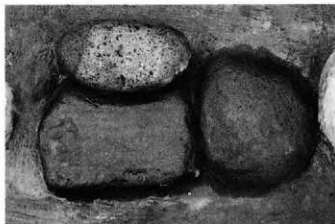
VI区1面3号建物跡遺物出土状況



VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面3号建物跡礎石番付



VI区1面5号建物跡 西より



VI区1面6号建物跡石組 北より



VI区1面6号建物跡全景 北より



VI区1面6号建物跡窑裏 北より



VI区1面6号建物跡窑裏 西より



VI区1面6号建物跡便所 西より



VI区1面6号建物跡便所大壘断面



VI区1面6号建物跡排水坑全景



VI区1面7号建物跡全景 北より



II区1面2号建物跡全景 西より



II区1面5号建物跡全景 南より



II区1面7号建物跡全景 東より



VI区1面4号建物跡全景 西より



VI区1面8号建物跡全景 西より



II区1面9号建物跡全景 西より



II区1面1号井戸全景 東より



II区1面1号井戸断面 北より



II区1面2号建物跡便槽断面



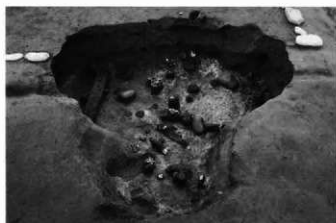
II区1面2号建物跡便槽断面



II区1面2号建物跡便槽完掘状況



II区1面1号井戸全景



II区1面1号建物跡内土坑



II区1面1号建物跡排水坑断面



VI区1面土坑



VI区1面1号土坑全景 北より



Ⅵ区1面1号井戸全景 西より



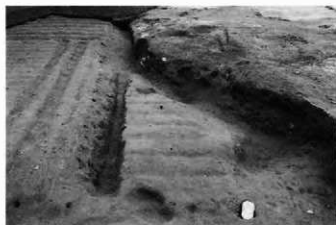
Ⅵ区1面1号土坑全景 西より



Ⅱ区1面2号集石全景 西より



Ⅱ区1面1号溝・1号土手断面 南より



Ⅱ区1面3・4号溝 東より



Ⅱ区1面5号道断面 南より



Ⅱ区1面1号道・5号溝 西より



Ⅵ区1面1号道断面 南より



II区1面全景 東より



II区1面1号建物跡全景 上空より





II区1面1号建物跡全景 上空より



II区1面1号建物跡全景 西より



II区1面3号建物跡全景 東より



II区1面3号建物跡全景 上空より



II区4号建物跡全景 上空より



II区6号建物跡全景 上空より



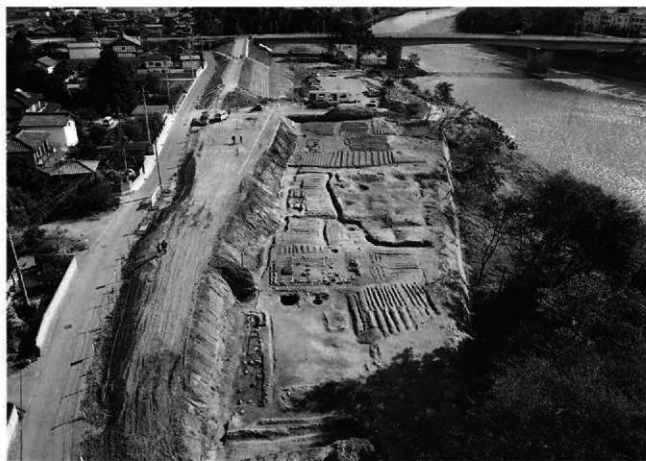
VI区1面全景 上空より



VI区1面全景(2・3号建物跡) 上空より



VI区1面全景 上空より



VI区1面全景 西より



VI区1面全景(2・6号建物跡) 上空より



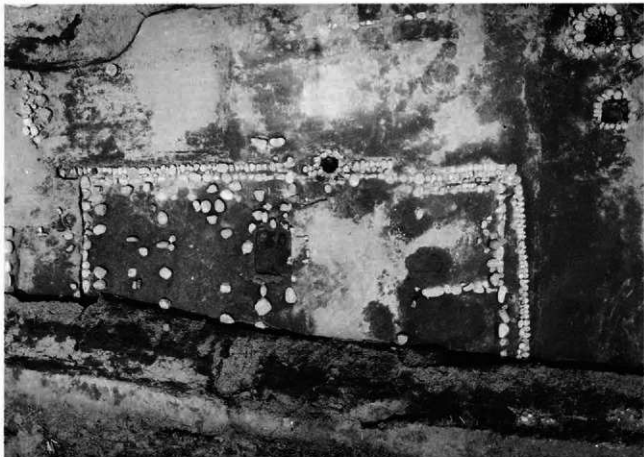
VI区1面全景 東より



Ⅵ区1面1号建物跡(北側部分) 上空より



Ⅵ区1面1号建物跡(南側部分) 上空より



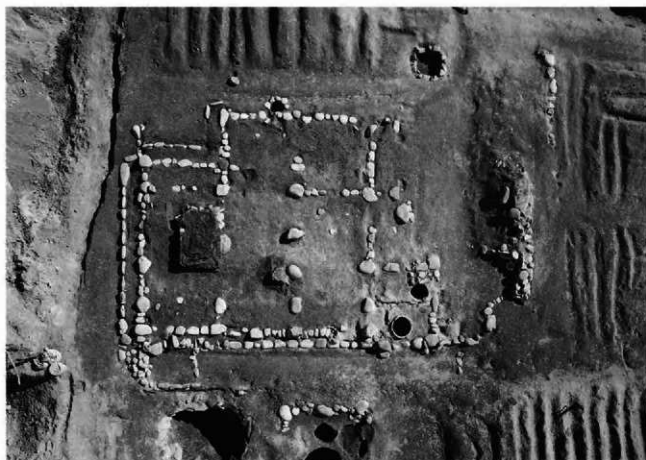
VI区1面2号建物跡(北側部分) 上空より



VI区1面2号建物跡(南側部分) 上空より



Ⅵ区1面3号建物跡 上空より



Ⅵ区1面6号建物跡 上空より





I区1面畑検出状況 東より



II区1面畑検出状況 南より



II区1面5号溝 東より



VI区1面畑検出状況 東より



Ⅵ区1面畑検出状況 北より



Ⅵ区1面畑検出状況 北より



M区1面全景 北より



M区1面全景 北より



II区1面泥流中石臼出土状況



II区0面1号建物跡全景 西より



II区0面1号建物跡全景 東より



II区0面1号建物跡礎石状況



II区0面1号建物跡礎石状況



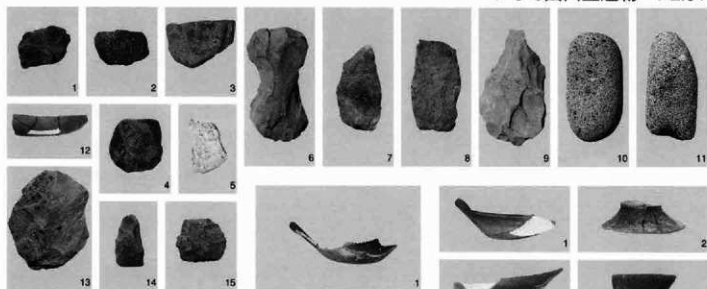
II区0面1号建物跡礎石状況



II区0面1号列石 北より



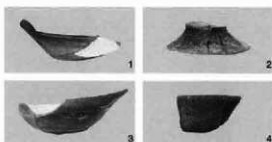
II区0面1号土坑 西より



I·II区 6·7面



I区 1号住



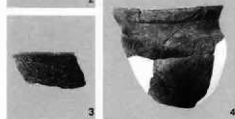
I区 2号住



I区 4号住



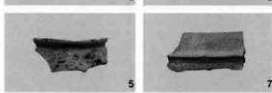
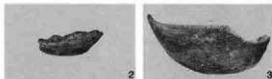
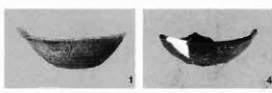
I区 5号住



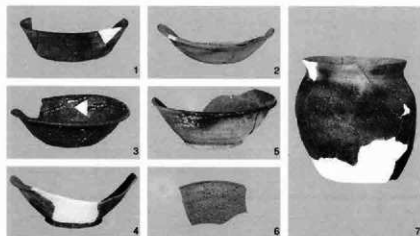
I区 7号住



I区 8号住



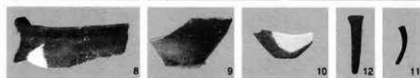
II区 1号住



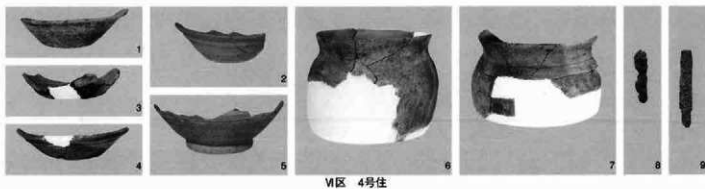
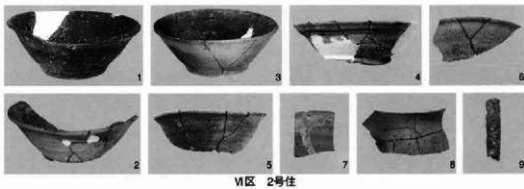
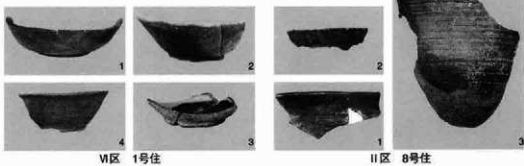
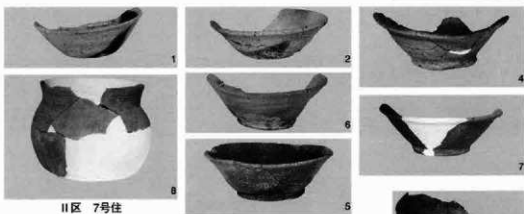
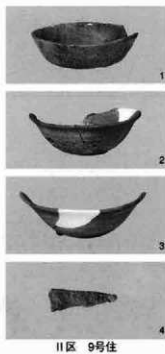
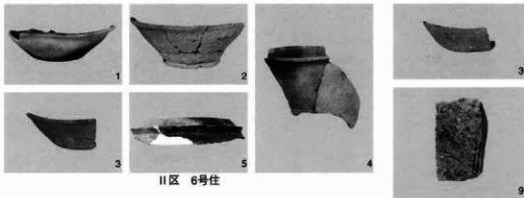
II区 2号住

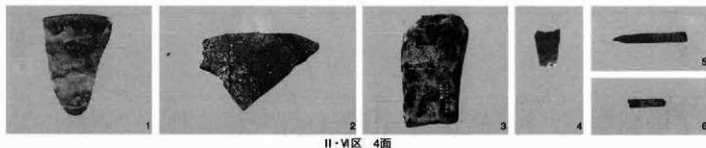
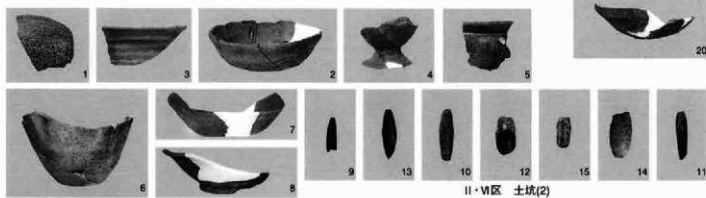
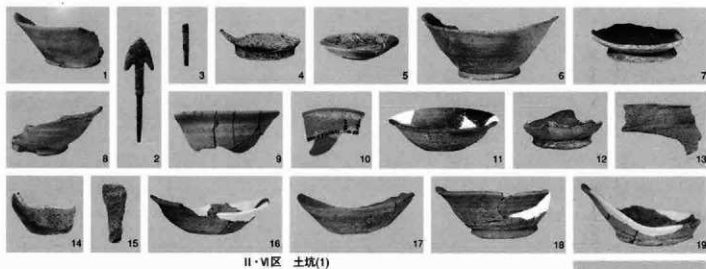
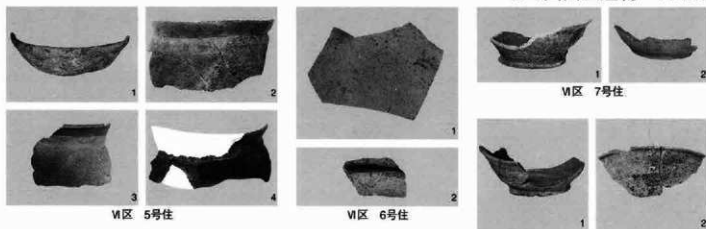


II区 3号住



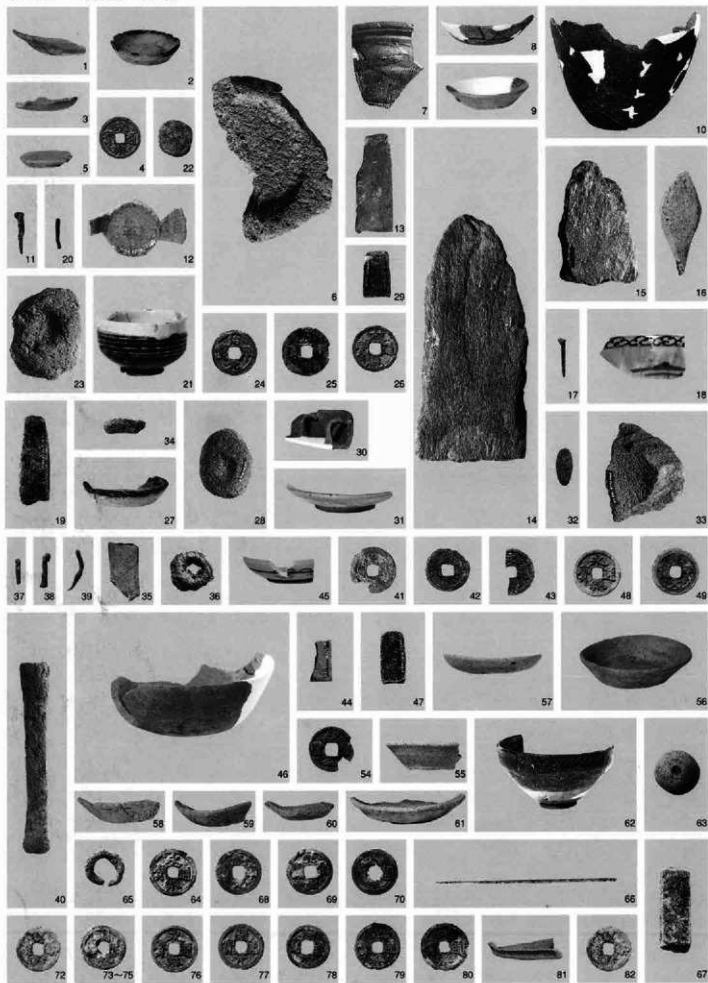
PL.52 5面出土遺物

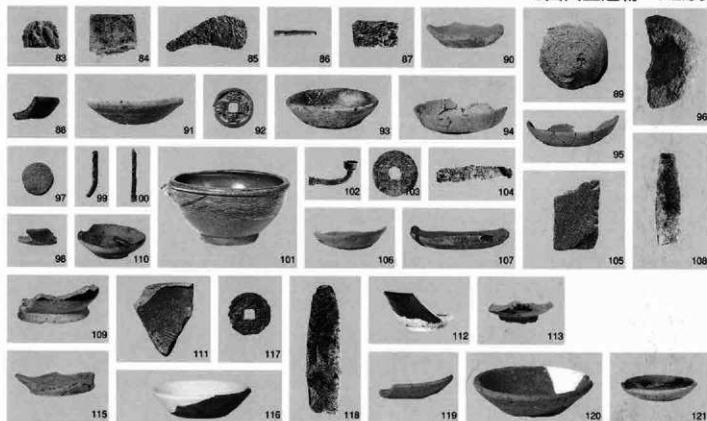




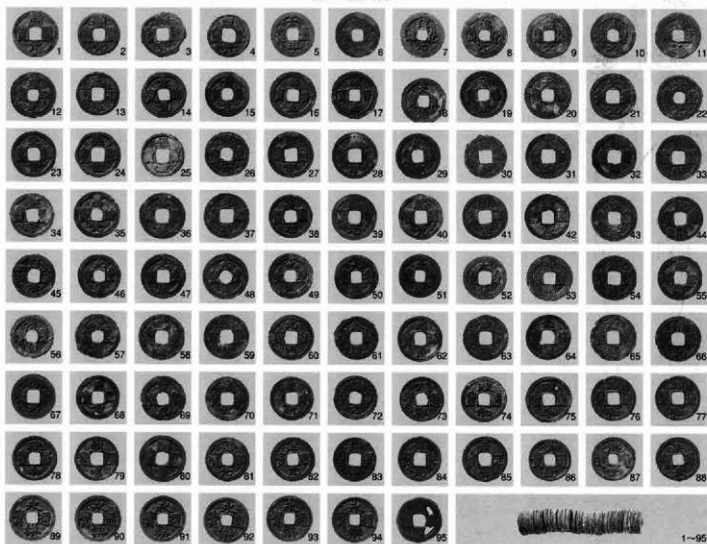


PL.54 3面出土遺物



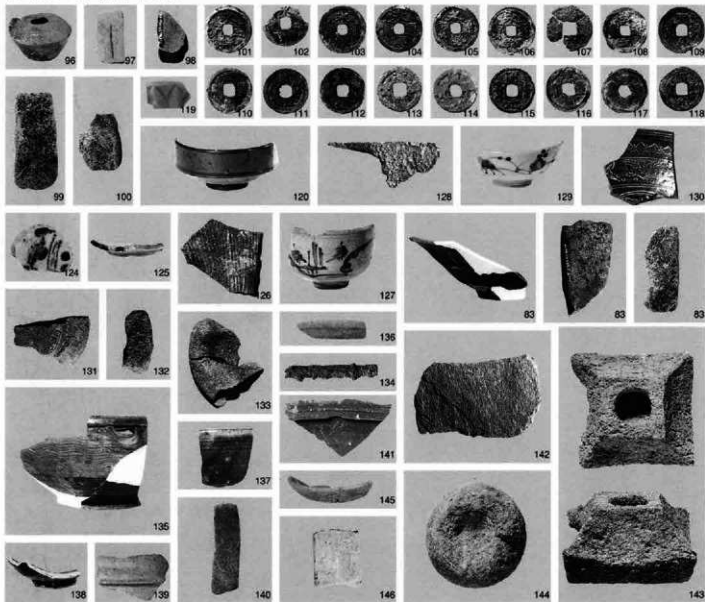


II区 土坑・ピット

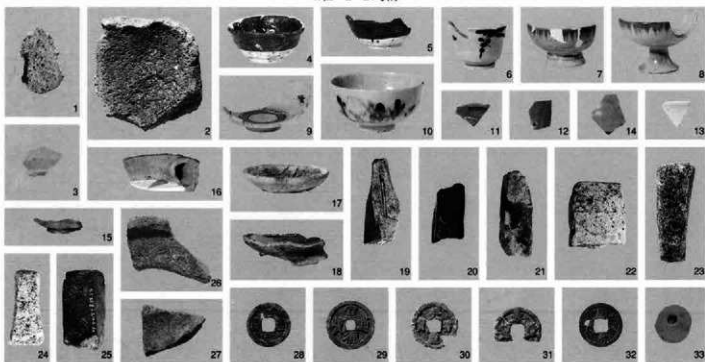


II区 1号溝

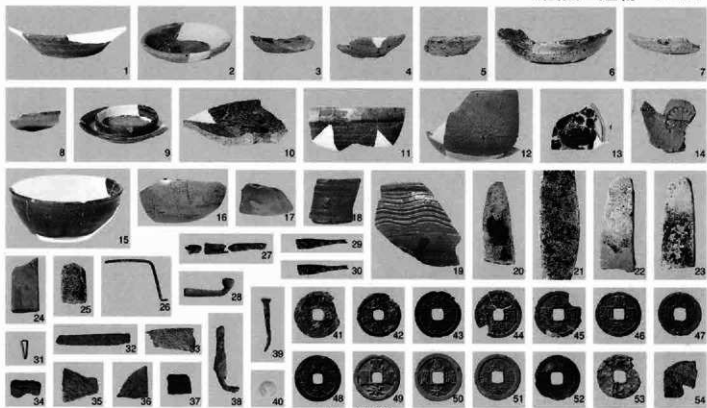
PL.56 3面出土遺物



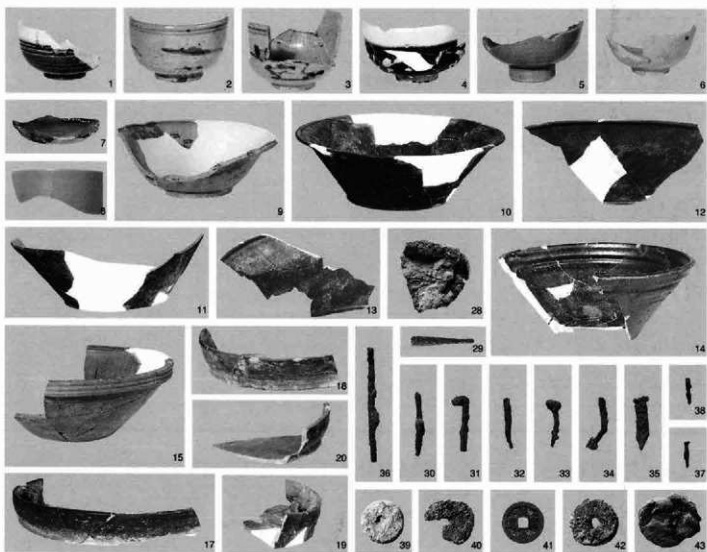
II区 2~21号溝



I・II区 遺構外

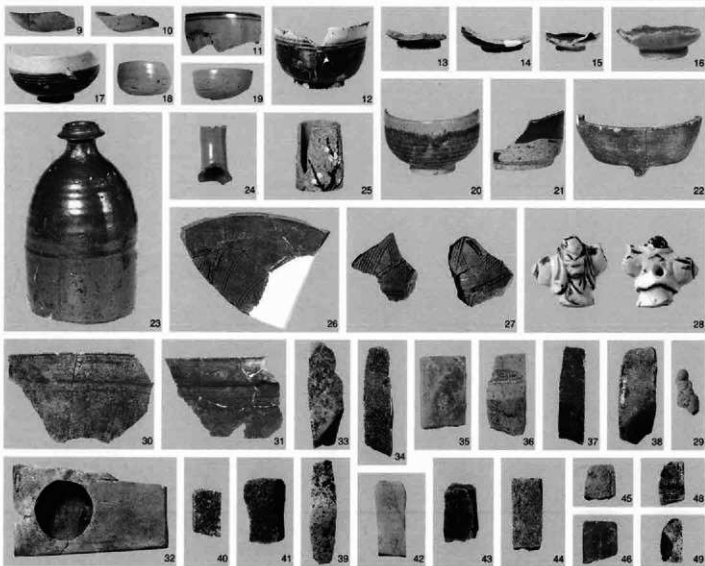
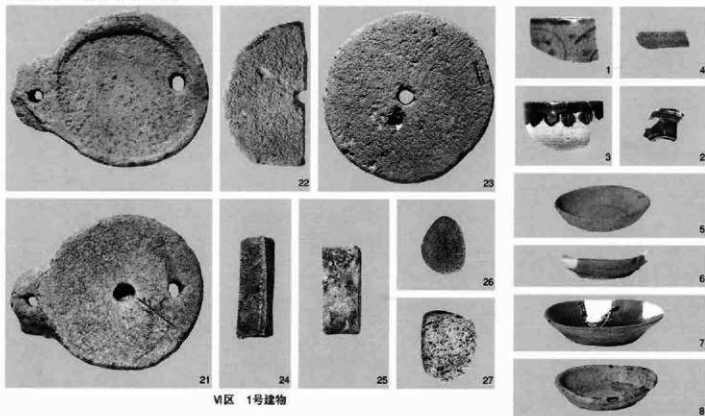


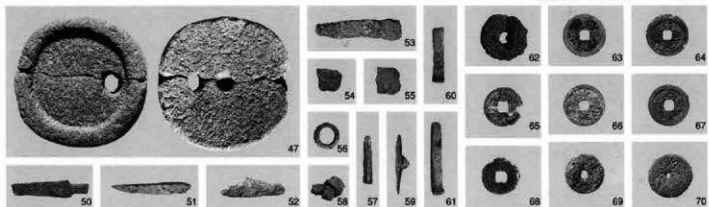
I区 1号建物



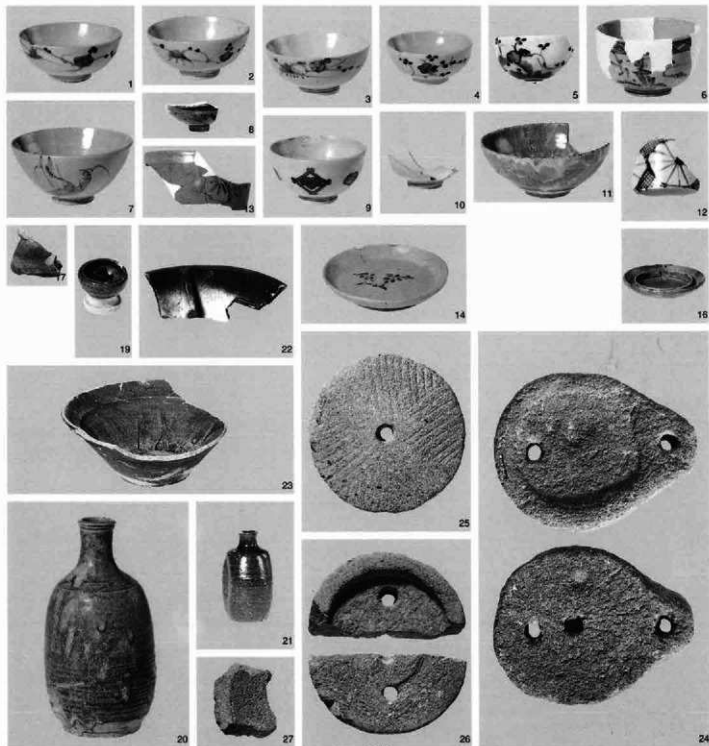
VI区 1号建物

PL.58 2面出土遺物



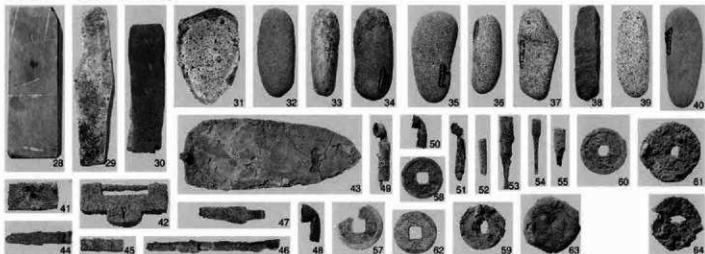


II·VI区 遺構外

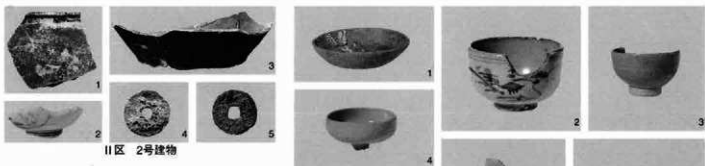


II区 1号建物

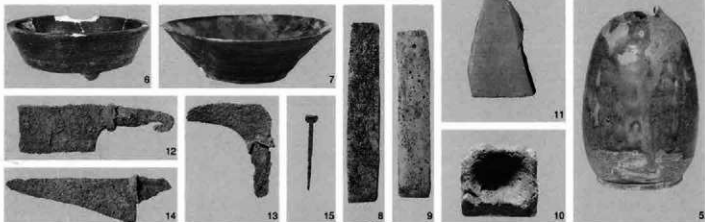
PL.60 1面出土遺物



II区 1号建物



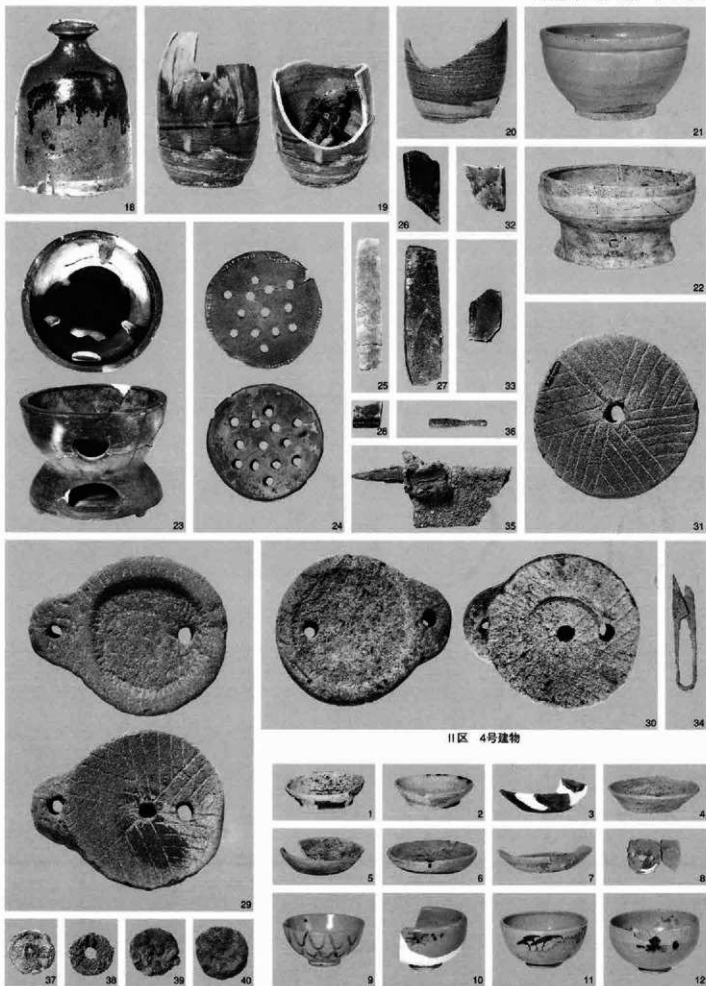
II区 2号建物



II区 3号建物



II区 4号建物



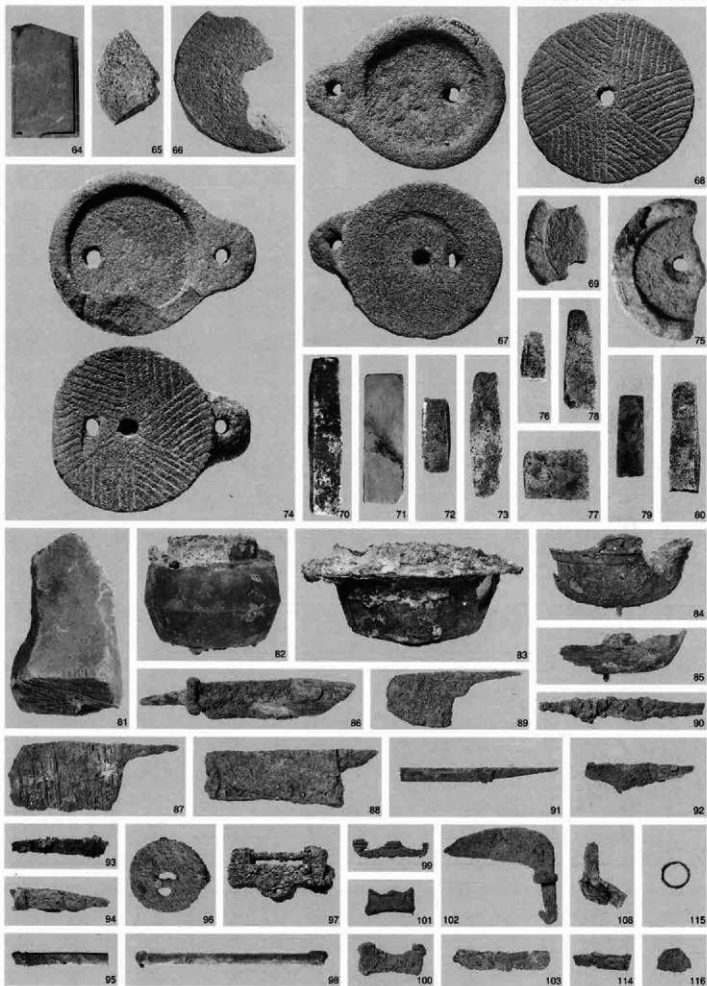
II区 4号建物

II区 6号建物

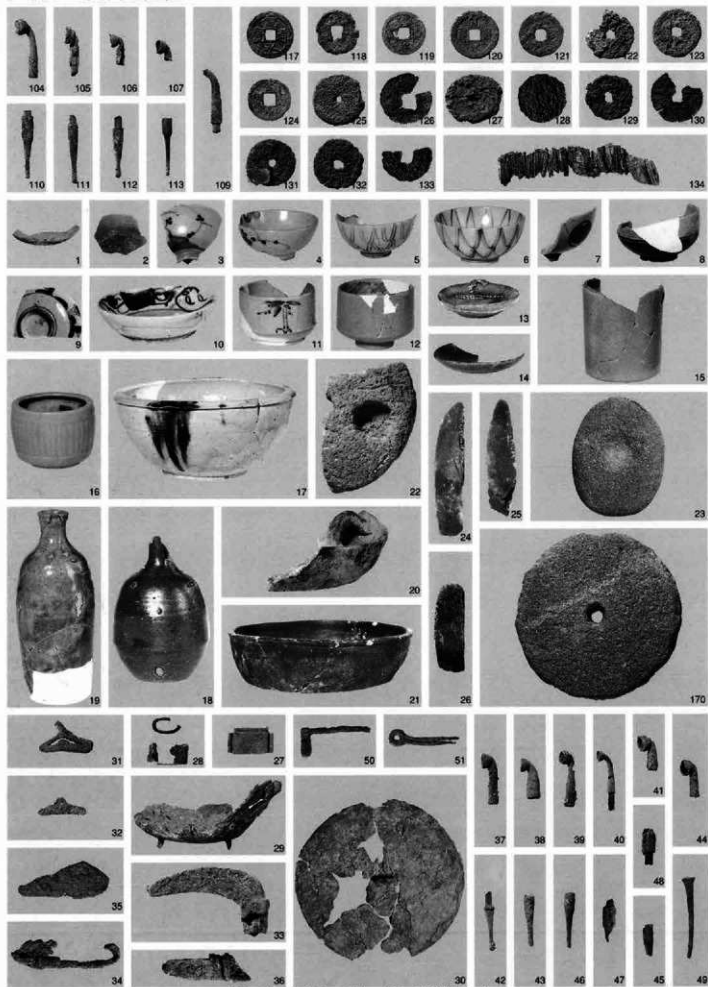


PL.62 1面出土遺物

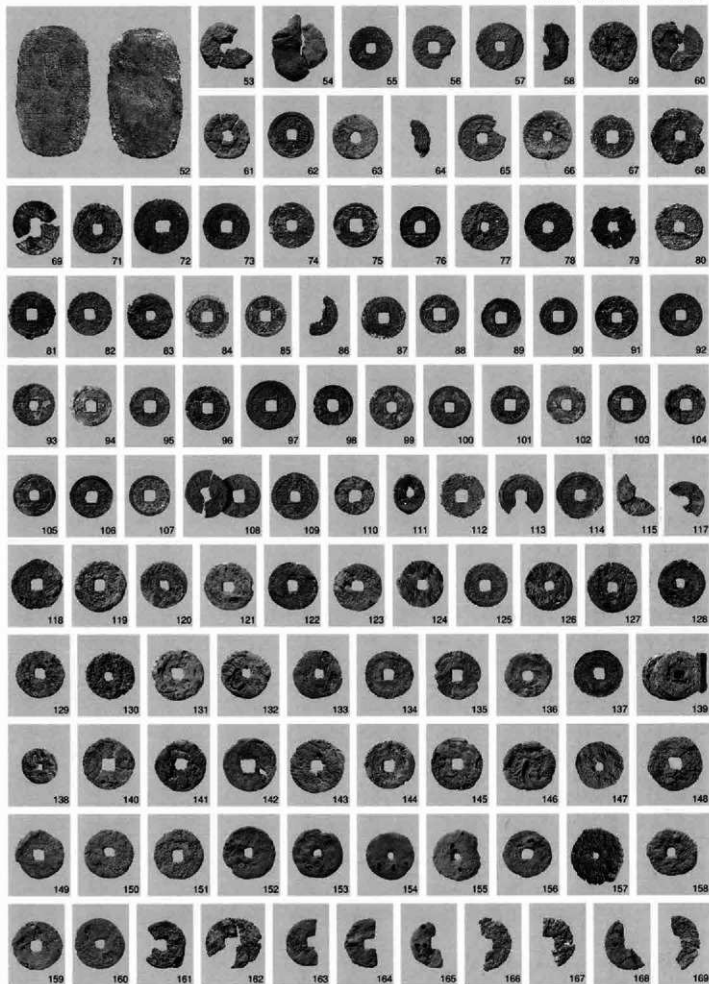




PL.64 1面出土遺物



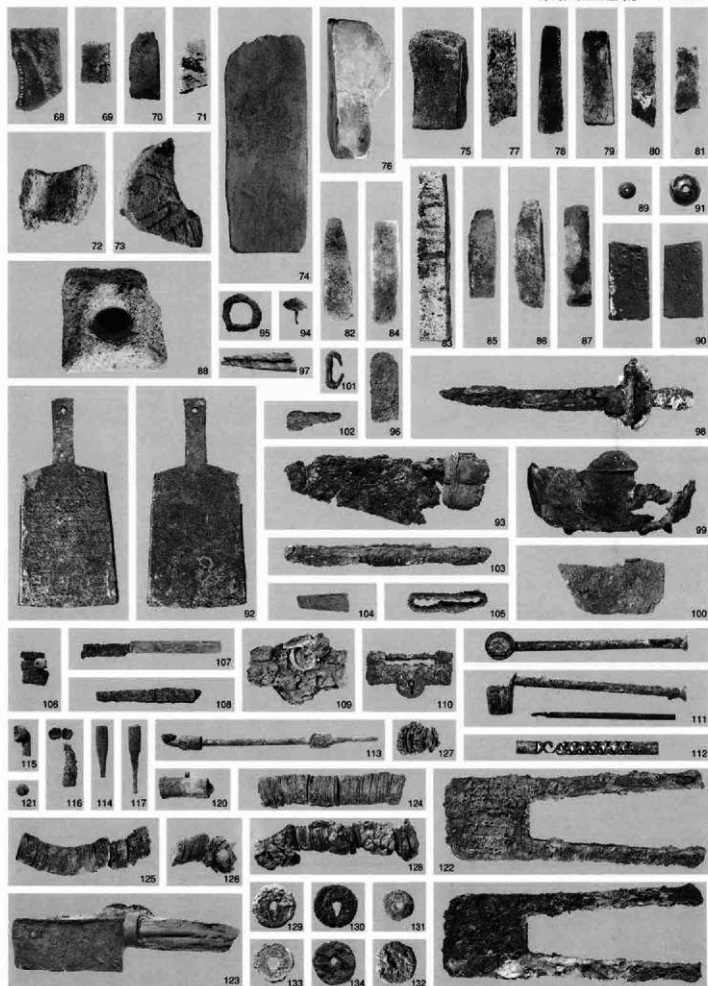
II区 6号建物 (104~134)・VI区 1号建物 (1~)



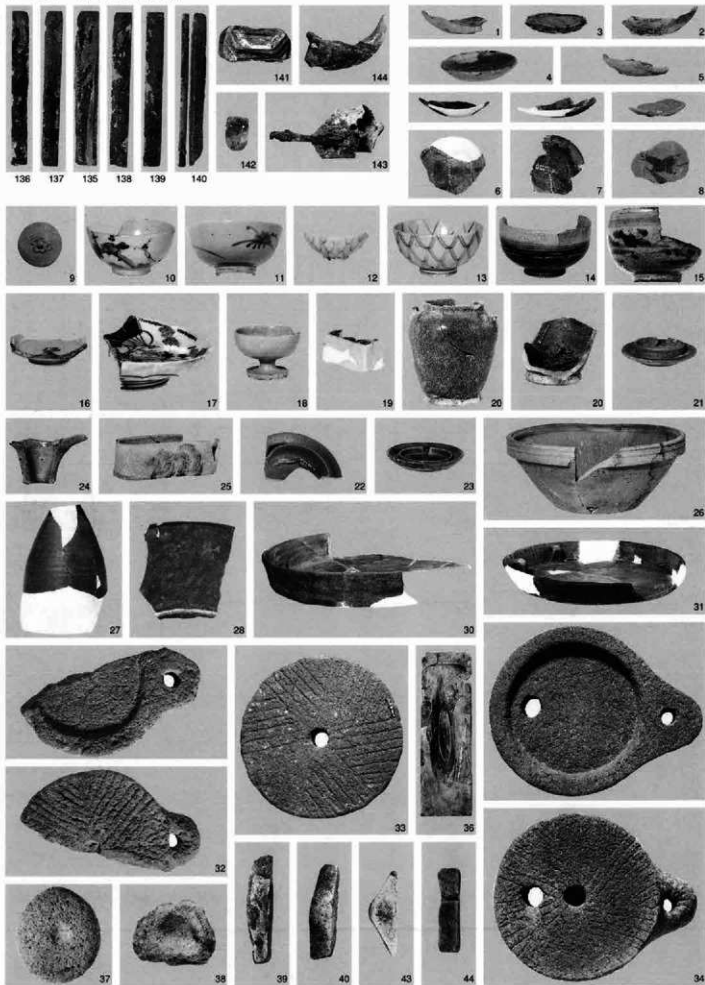
PL.66 1面出土遺物

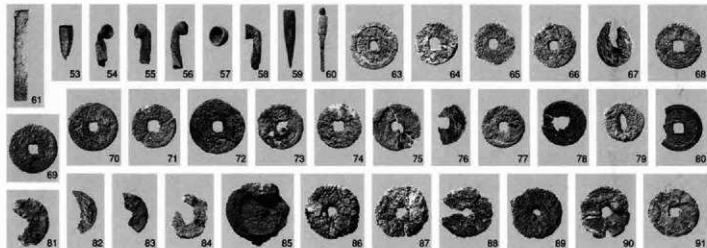
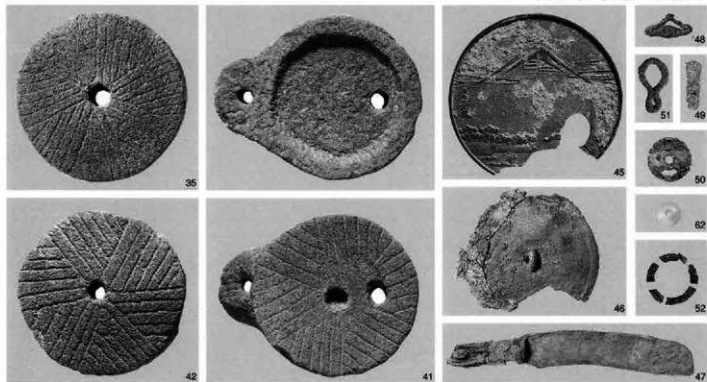


V区 2号建物



PL.68 1面出土遺物

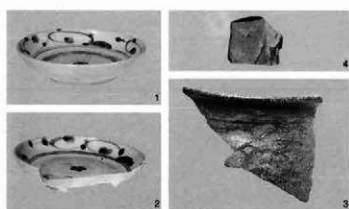




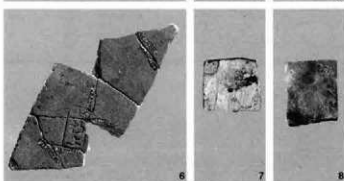
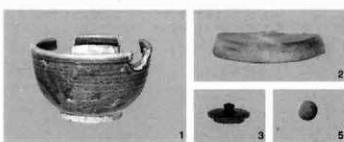
Ⅵ区 3号建物



Ⅵ区 4号建物

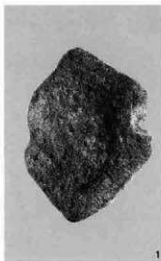


Ⅵ区 5号建物

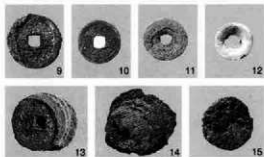


Ⅵ区 6号建物

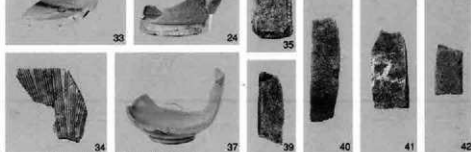
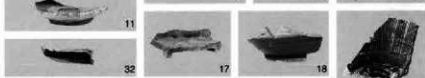
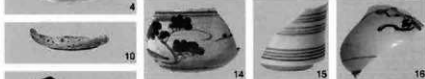
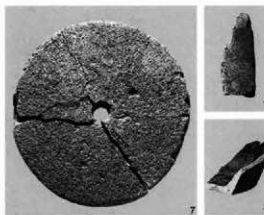




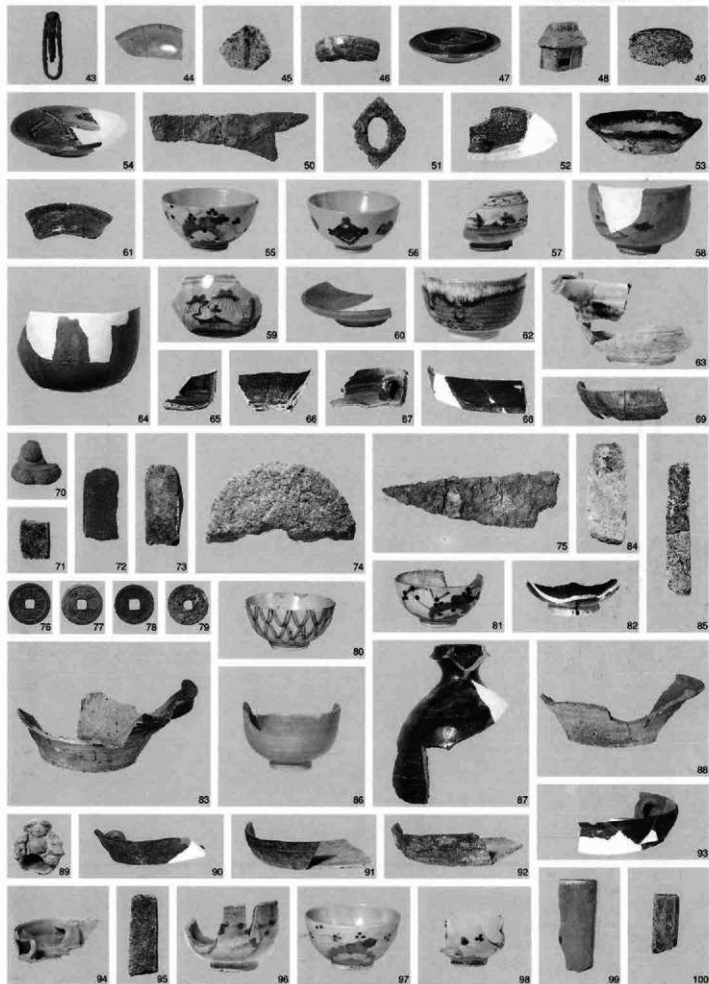
VI区 7号建物



VI区 6号建物



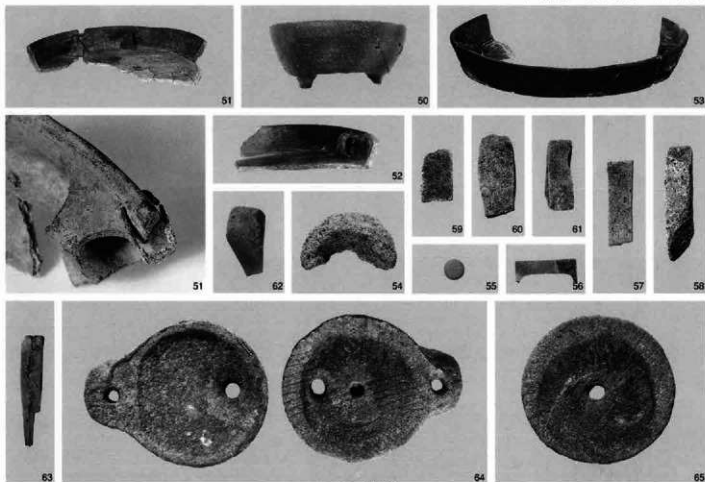
II区 井戸・土坑・溝・土手・集石



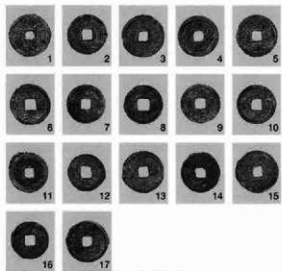
II·W区 集石·列石·盛土·土手·畑

PL.72 1面出土遺物





II・VI区 遺構外



II区 0面1号土坑



II区 3面24号土坑



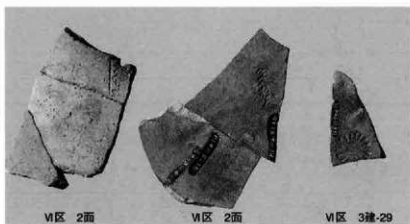
II区 3面37号土坑



VI区 1面2号建物



VI区 1面2号建物

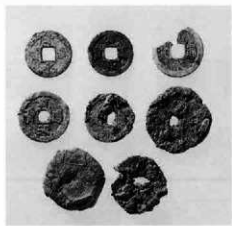
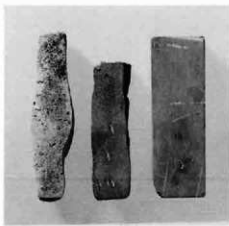
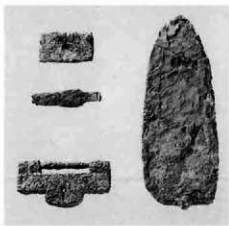
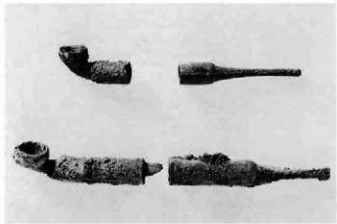


VI区 2面

VI区 2面

VI区 3建-29

鍋底面の文字・菊花文印





II区 4号建物出土陶磁器



II区 6号建物出土陶磁器



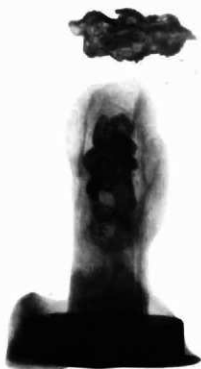
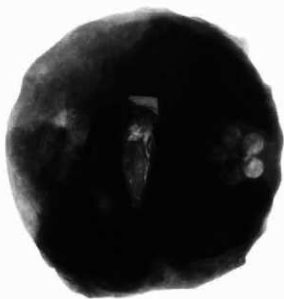
VI区 1号建物出土陶磁器



VI区 2号建物出土陶磁器



VI区 3号建物出土陶磁器



VI区 2号建物-98 X線写真





## 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみふくしまなかまちいせき						
書名	上福島中町遺跡						
副書名	一般河川利根川広域一般河川改修(局改)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第318集						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者	小野和之・須田正久						
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511						
発行年月日	2003年3月						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	事業コード				
上福島中町遺跡	群馬県佐波郡 玉村町上福島	10464	00803	36°18'40" 139°7'46"	20010701～ 20021130	14,000㎡	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上福島中町遺跡	集落 生産	古墳時代 平安時代 中世 江戸時代	溝・土坑・ 竪穴住居 畚・建物跡 井戸・道・ その他	土師器 陶恵器・土師器 陶磁器・鉄製品・石器 陶磁器・石器・鉄、銅製 品 その他	天明3年(1783)、浅間山噴火に伴う泥流によって埋没した江戸時代後期の建物跡や井戸・便所・道・畑等および多量の生活具が出土している。		



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第318集

## 上福島中町遺跡

一級河川利根川広域一般河川改修(局改)事業  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

平成15年3月20日 印刷

平成15年3月25日 発行

編集/発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

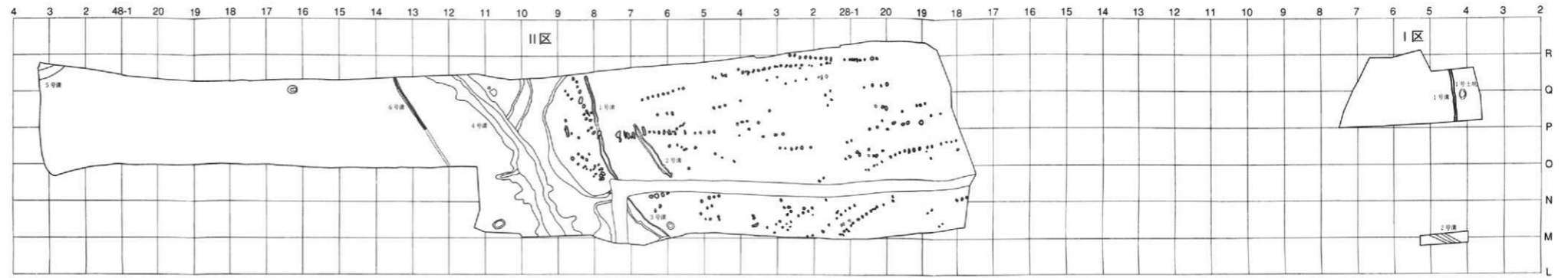
〒377-8505 勢多郡北楯村大字下箱田784番地の2

電話 0279 (52) 2 5 1 2 (代表)

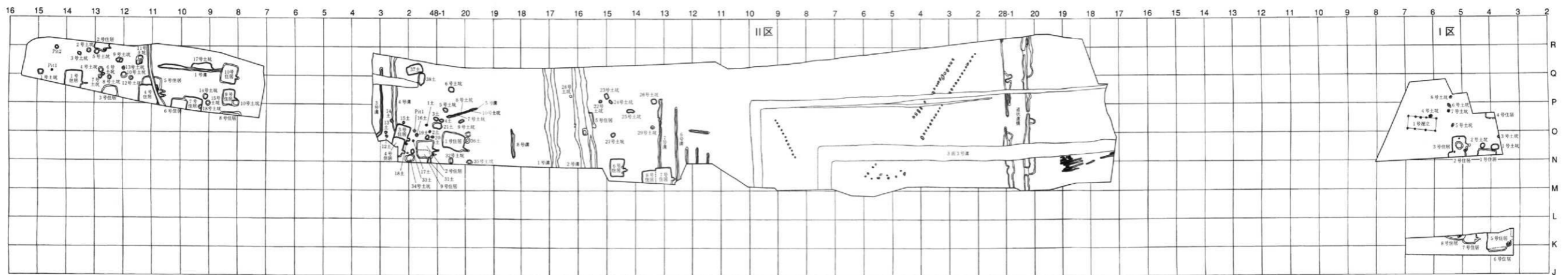
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org>

印刷/株式会社 開文社印刷所

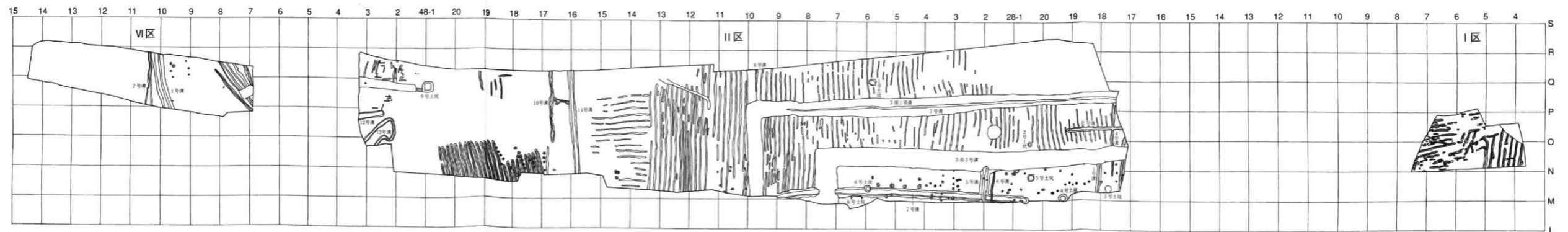
付図1 上福島中町遺跡 全体図 1:400



6 面

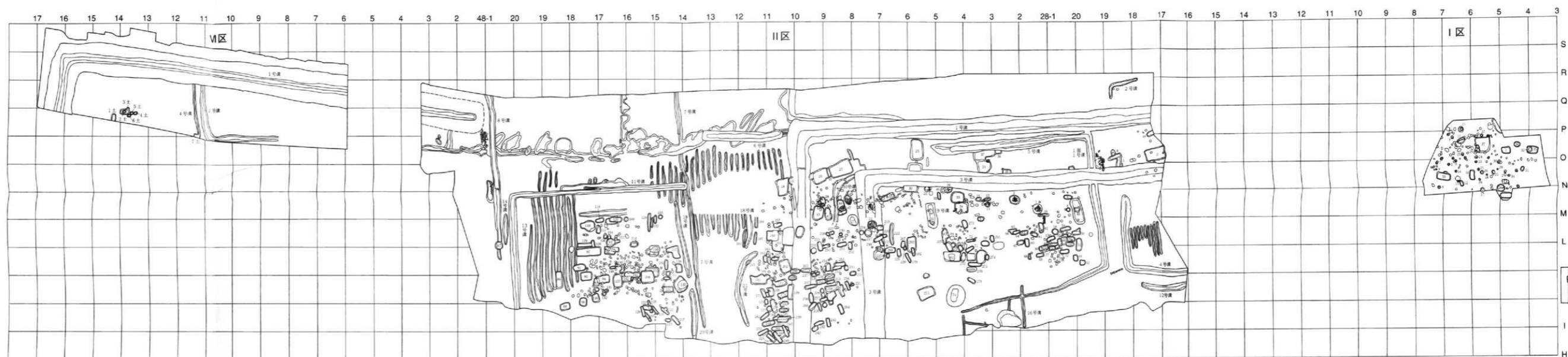


5 面

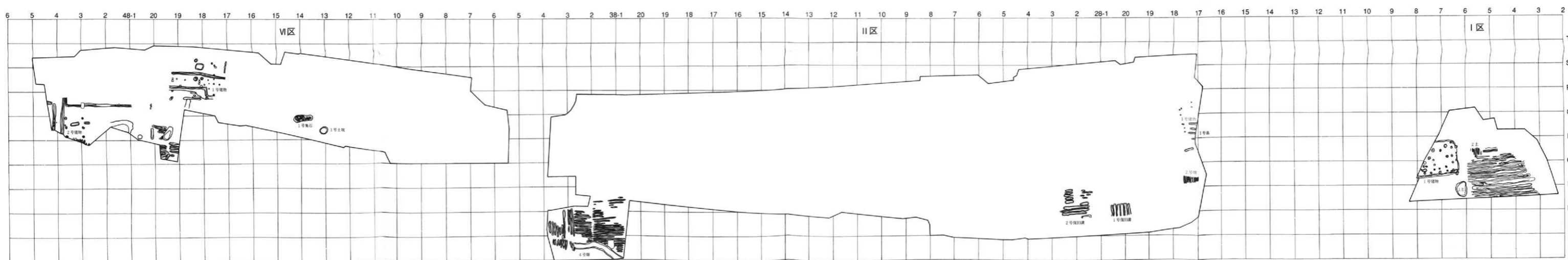


4 面

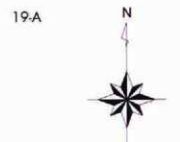
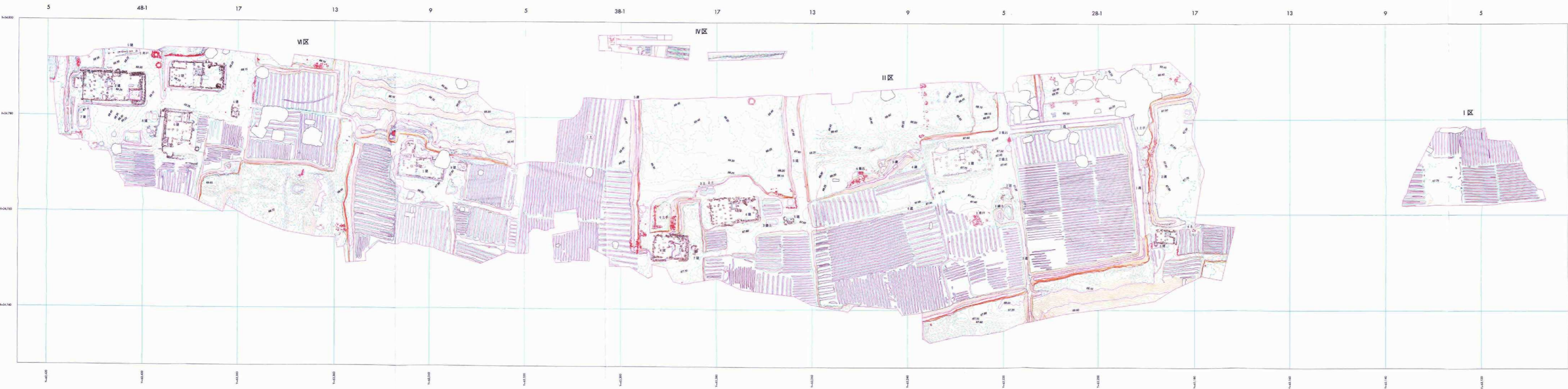
付図2 上福島中町遺跡 全体図 1:400



3 面



2 面



1/300

19A  
Q  
M  
I

付 図 3 上福島中町遺跡 1面全体図 1:300